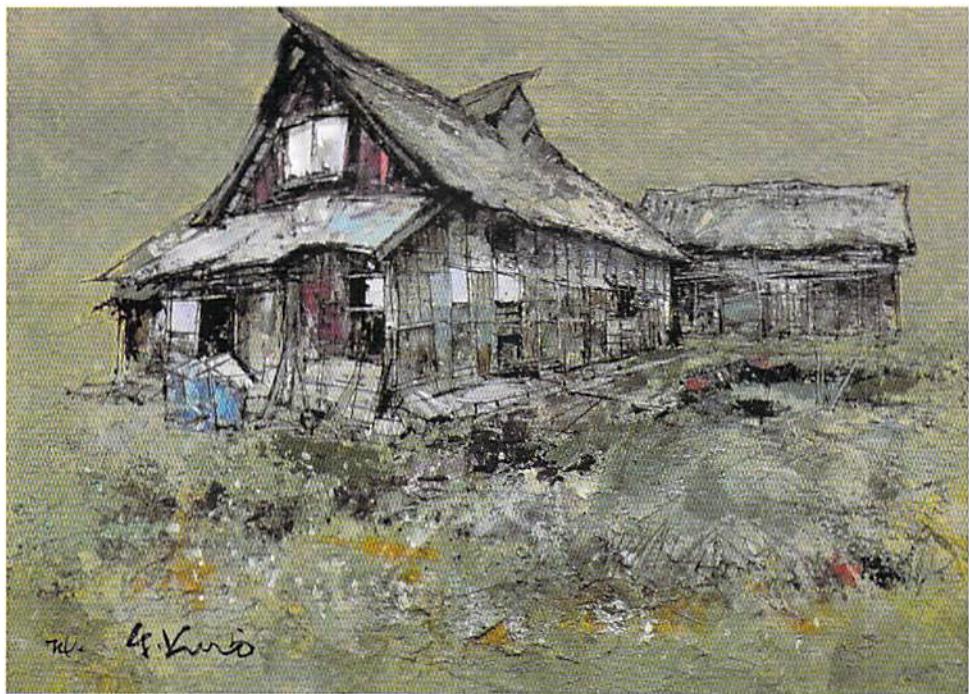


社団  
法人 米沢有為会々誌



「まほろば民家」 黒沢梧郎

復刊第62号 平成24年9月



登録商標 第1457084号



### 米沢牛販売店

#### 日本橋 日山

日本橋 日山本店 中央区日本橋人形町2-5-1

TEL 03 (3666) 5257

すき焼き割烹 日山 中央区日本橋人形町2-5-1

(予約が必要です) TEL 03 (3666) 2901

日山 横浜店 横浜市西区南幸1-5-1 相鉄ジョイナス内B1

TEL 045 (321) 6649

日山 亀戸店 江東区亀戸5-1-1 亀戸駅ビルアトレ内B1

TEL 03 (3638) 1129

米沢牛銘柄推進協議会  
山形おきたま農業協同組合

米沢牛出荷組合

社団  
法人 米沢有為会々誌

復刊第62号



まほろば民家 黒沢梧郎

## 〔表紙の絵について〕

2009年11月16日～22日、東京・京橋の“ギャラリーくぼた”において、米沢有為会創立120周年記念事業として「ふるさとおきたまチャリティー美術展」を開催いたしました。郷土出身の画伯 故黒沢梧郎氏に特別出典をお願いいたしました。その中の1点を東京興譲館寮にご寄贈いただきました。

この度ヒテ様（奥様）のご了解をいただき表紙を飾っていただきました。



「大嶺の吾妻」壁画制作・取材中の作者

## 【黒沢梧郎プロフィール】

1918(大正7)年 山形県東置賜郡川西町に生まれる

1937(昭和12)年 山形県立米沢興譲館中学校卒業。東京美術学校入学。藤島武二教室に学ぶ。41年卒業

1948(昭和23)年 前衛美術会創立会員

1964(昭和39)年 ヨーロッパ・パキスタン・インド取材旅行。インド仏像を主題とした作品展を池袋西武デパートにて開催。画集「インド仏像による制作」刊行

1973(昭和48)年 異色作家三人展（佐田勝、玉置正敏）開催。小田急デパート

1975(昭和50)年 「北の民家展」新宿小田急デパートで開催

1976(昭和51)年 「黒沢梧郎画業展」米沢市上杉博物館で開催

1977(昭和52)～1982(昭和57)年 東急デパート、小田急デパート、大沼デパート、銀座アートホールにてそれぞれ個展開催

1981(昭和56)年 川西町民体育館、川西町農村環境改善センター、山形グランドホテル、上山温泉月岡ホテル、米沢市ニューグランド北陽、川西町立川西中学校にそれぞれ作品制作  
インドネシアボルドプール仏跡取材旅行

1984(昭和59)年 山形市山形松坂屋で個展

1985(昭和60)年 「黒沢梧郎先生を囲む会」、米沢市に発足

1987(昭和62)年 アルカディアの里「東京川西会」発足、初代会長。米沢興譲館高校に「大嶺の吾妻」制作

1989(昭和64)年 高畠町「ひろすけ記念館」に「高畠町の四季・春夏秋冬」制作  
文化功労者として川西町長から表彰

1990(平成2)年 米沢市世紀工業(株)の世紀音楽ホールに「飛天」制作。

1991(平成3)年 日本文化振興会より国際芸術文化賞を授与される。

1994(平成6)年 川西町フレンドリーブラザに壁画「古墳のあるまちファンタジー」「川西の四季」制作

1996(平成8)年 「黒沢梧郎回顧展」大沼デパート米沢店で開催

1999(平成11)年 逝去。享年81歳

## 目 次

御挨拶	名譽会長 上杉 邦憲	記念館開館までの経緯、略年史
会員のみなさまへ	会 長 須貝 英雄	我要榮略年表
本部活動報告		
○定時総会及び付帯催事に関する報告		
一、第一二四回定時総会	8	8
二、功労賞・特別顕彰表彰式	8	8
○本部各部門の主要活動報告	8	8
○本部主要委員会の活動報告	6	4
<b>特集</b> 我妻榮記念館開館二十周年記念講演		
私の志——二十四年度奨学生の作文——		
寄宿舎、奨学制度利用者一覧		
文化大学		
東京支部		
支部だより		
米沢支部		
仙台支部		
京都支部		
北海道支部		
興譲館だより		
東京興譲館		
仙台興譲館		
記念館運営報告並びに計画		
我妻榮記念館だより		
記念館運営報告並びに計画		

61	60	57	54	54	52	50	47	43	41	36	35	32	18	16	12	10	8	8	8	6	4
61	60	57	54	54	52	50	47	43	41	36	35	32	18	16	12	10	8	8	8	6	4
記念館開館までの経緯、略年史																					
我要榮略年表																					
置賜市町だより																					
米沢市																					
長井市																					
南陽市																					
高畠町																					
川西町																					
小国町																					
白鷹町																					
飯豊町																					
トピックス																					
① 国立国会図書館長誕生																					
② 愛知大学元学長「本間喜一」の胸像寄贈																					
③ ふるさとの童話「ないしょ話」																					
④ YOZAN戦士 アズマンジャー誕生																					
置賜歴史短信																					
江戸時代の草木塔17基 文化財に指定																					
会員の広場																					
役員名簿（平成24年9月）																					
賛助会員名簿																					
編集後記																					
本部・各支部事務所等所在地																					



## 御 挨 捭

名譽会長 上 杉 邦 憲

有為会会誌第六十二号発刊に寄せて一言御挨拶を述べさせて戴きます。

猛暑や大雨など何か今の世相に似て不順な今年の夏でしたが、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。東日本大震災から早や一年半を経過し、復興も徐々には進んでいるものの、未だに御苦労なさつていてる方、風評被害に悩まされておられる方もいらっしゃることと思います。心よりお見舞い申し上げます。

この暑い日本をさらに熱くしたのはロンドン・オリンピックでした。金メダルこそ少なかつたものの、メダル総数は史上最多の三十八個に達するとともに、開催中一日も欠かさずメダル獲得するなど、日本代表チームの活躍に寝不足になられた方も多かったのではないでしょ

うか。特に目立つたのは、「なでしこ」を始めバレーボール、卓球の他、レスリングや柔道などの格闘技や重量挙げといった力技の競技での女子選手の活躍で、男子選手陣は形無しの感無きに非ず、これも昨今巷間言われるところの草食系男子、肉食系女子の表れでしょうか。日本男子よ奮起せよ！と言いたいところです。

さて、米沢有為会における今年度最大の課題は、何といっても認定公益法人の資格獲得でありましょう。これまで何年にもわたる役員の皆様をはじめとする会員諸氏の御努力により、手続きもいよいよ大詰めを迎えていることは、総会等でも御承知のとおりです。

米沢有為会がいよいよ認定公益法人として新たな一步を踏み出すことが出来る日の近いことを信じ、本会の益々の発展と会員皆様のご健勝・弥栄を祈念して御挨拶と致します。



## 会員のみなさまへ

会長 須貝 英雄

米沢有為会会員の皆様、お元気にお過ごしのことと思ひます。

日ごろから当有為会の活動にご協力いただき厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の東日本大震災の記憶がいまだ鮮明に残り復興もままならないもどかしさの中、中央政局が混迷を続け、我が国を取り巻く経済も一向に閉塞感から脱却できないままの状況が続いております。このような状況だからこそ、地域・地方の再生、ひいては日本再生のエネルギーが必要と言えましょう。当米沢有為会の人材育成を柱とした活動が多少なりともそのための基礎・力となるべく努力してゆきたいと思ひます。

当会の当面の重要活動案件について述べますと、その第一は、いつも申し上げています通り「公益法人認定移行活動」です。対外的な申請活動は最終段階を迎えております。また、それと並行して対内的に会員皆様への説明とご協力要請を行つております。特に、移

行に伴つて課題となる会員制度およびそれに伴う会費の問題についてです。本年6月に各支部および総会でのご説明と皆様からのご意見をいたたく機会を設けました。そこでのご意見を踏まえて再度理事会で審議する予定としております。それを受けてまた皆様にもお知らせいたします。

第二の重要な活動案件は我妻栄記念館の維持・運営です。本館の傷みも進んでおり、当面の修復もさることながら長期的な観点からの検討が必要な段階となつております。皆様にも何らかのご協力をお願いすることも必要かと考えております。

第三の重要な活動案件は、東京および仙台興譲館寮における寮生の確保です。時代の流れとは言え、近年寮生の応募が年々減少しております。奨学金貸与制度とともに人材育成の核ともいべき学生寮の維持・運営をさらに活性化させるべく、プロジェクトチームを設置して優秀な寮生の確保に努めているところです。

ここで皆様に朗報をお知らせいたします。理事であり、公益法人認定移行委員会の事務局長を務められた大滝則忠氏が国立国会図書館館長という極めて重要な要職に就かれました。改めてお祝いを述べさせていただきます。

最後に会員の皆様の今後のさらなるご協力をお願いして私からのあいさつといたします。

# 本部活動報告

八

## ◎定時総会及び付帯催事に関する報告

### 一、定時総会の報告

(社)米沢有為会の第二二四回定時総会は、平成二十四年六月三十日(土)十三時三十分~十五時、伝国の社大會議室で開催されました。

議案審議に先立

ち、ご出席いただけ

なかつた上杉邦憲名

誉会長からのご挨拶

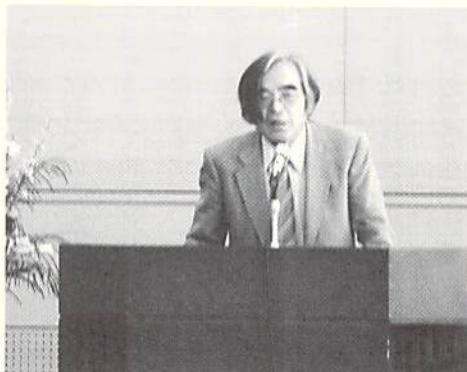
が代読され、須貝英

雄会長及び副会長の

安部三十郎米沢市長

よりご挨拶がありま

した。



生前会長に対し感謝状と記念品が贈呈されました。

統いて、定款第一四条第二項の規定により会長が議長となつて開会を宣言し、直ちに議事に入りました。多くの議案が審議され、各議案とも原案どおり承認されましたが、議事の概要及び審議経過は次の通りです。

### 第一号議案 平成二十三年度事業・業務報告の件

配布の米沢有為会会報(以下「議案書」という)記載の「平成二十三年度事業・業務報告」に沿つて平山英三総務部長より報告及び説明があり、採決の結果全会一致で可決されました。

### 第二号議案 平成二十四年度決算及び監査報告の件

議案書記載の「平成二十四年度決算報告書」に沿つて、鈴木信之財務担当理事より報告及び説明があり、その後、西澤榮一監事より監査報告があり、採決の結果全会一致で可決されました。

### 第三号議案 平成二十四年度事業・業務計画(案)の件

議案書記載の「平成二十四年度事業・業務計画(案)」について平山英三総務部長より説明があり、採決の結果、

賛成多数で可決されました。

#### 第四号議案 平成二十四年度収支予算(案)

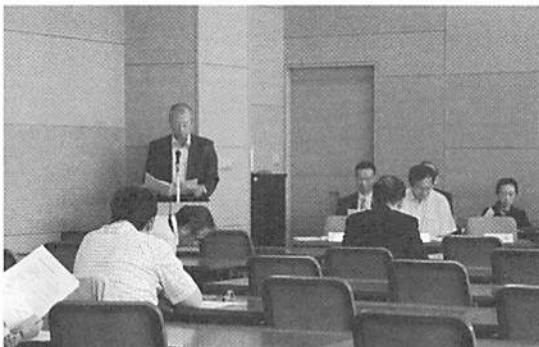
議案書記載の「平成二十四年度収支予算(案)」に沿つて鈴木信之財務担当理事より説明があり、採決の結果、賛成多数で可決されました。

#### 第五号議案 公益認定申請の件

昨年の総会で公益法人移行申請のための「定款の変更の案」が承認されました。その後の経緯で、一部修正が必要となつたため、平山総務部長より議案書及び添付の正誤表に基づき、修正の経緯と理由について説明がありました。また、公益認定申請に際して必要な細則等のうち総会の議決が必要な「公益社団法人米沢有為会役員等の報酬等及び費用に関する規程(案)」「公益社団法人米沢有為会特定費用準備資金等取扱規程(案)」、「公益社団法人米沢有為会基金取扱規程(案)」及び「公益社団法人米沢有為会総会運営規則(案)」についての説明があり、一括採決の結果、本案は定款四六条に定める定款の変更に必要な総会員の四分の三以上の賛成多数で可決されました。

#### 会務報告

平山英三総務部長より公益法人移行に関して各支部会員から様々な懸念、疑問が出ていることに対し、「公益認定準備委員」が手分けをして、北海道支部を除く各支部の総会で説明と質疑応答を行つた事及び、その概要につき報告がありました。



## 二、功労賞、特別顕彰表彰式

本年度の産業功労、特別顕彰として次の方々に決定、それぞれ表彰状と記念品が授与されました。

### ○教育功労賞

**江本一男 殿**

置賜農業高校実習教諭

長年にわたり畜産部門を担当し、地域農業の担い手育成に貢献した。平成十三年に加工部門を担当してからは、地元菓子店と提携し、

きなこケーキ・三色大福・米粉サブレなどを商品化した。



用の研究に取り組み、生徒とともに、米ぬかとおからを利用した家畜飼料（搾りかすサイレージ）を完成させ地域への普及活動に取り組んだ。平成十八年からは羽前小松駅前で直営店を開くことで町興し・観光に結びつける取組みを立ち上げ、平成二十一年には、地域の農家やMOTTAINAI研究会の会員を対象に、飼料の作り方研修会を定期的に行い、飼料の普及に努めるとともに、地元の小学校では環境をテーマとした出前授業を行うなど、環境教育についての活動も行っている。

各取組みに対する受賞歴

平成二十年度

エコ杯やまがた大賞

アサヒビール主催若武者育成塾最優秀賞

ストップ温暖化「一村一品」大作戦二〇〇九

審査員特別賞

平成二十一年度

第十回環境やまがた大賞

第十六回コカ・コーラ環境教育賞

「次世代支援部門」大賞

平成二十二年度

第二回全国高校生「観光甲子園」

「えき・まち活性化プロジェクトチーム」

グランプリ（文部科学大臣賞）受賞

リデュース・リユース・リサイクル功労者表

彰事業内閣総理大臣表彰

山新3P賞（平和賞）

農業クラブ指導に卓越した力を持ち、聴衆の心に語りかけるような発表力を付けさせる技能とともに、多くの生徒を全国大会や東北大会で入賞するまでに育て上げた実績は多大である。

### ○特別顕彰者

大久保琳太郎（米沢市立第四中学校三年）殿

第五十一回 全国中学校水泳競技大会

男子平泳ぎ100m 優勝

男子平泳ぎ200m 優勝

第六十六回 国民体育大会水泳競技大会

少年男子B 平泳ぎ100m 第三位

蒲生遼河（川西町立川西中学校三年）殿

第十回 東北中学生ホッケー選手権大会 第4位

第四十二回 全日本中学生ホッケー選手権大会 出場

第十二回 全日本都道府県対抗11人制ホッケー

選手権大会 出場

全日本ホッケー U-16代表出場大会

F-H-E CUP IN PERTH (オーストラリア) 第3位



※記念講演の内容は「特集」とした。

## ◎本部各部門の主要活動報告

### ○総務部

昨年の総会を受けた第二回理事会（平成二十三年六月三十日開催）において、理事の業務分担が審議されました。役員選考委員会の答申を踏まえて、新会長に前副会長の須貝英雄氏が、副会长に米沢市長の安部三十郎氏（再任）と総務部長の平山英三が選任されました。新体制のもとでの担務は新定款における組織を先取りする形で決定されました。詳細は役員名簿をご覧ください。総務部長は当面、平山が兼務することになりました。

須貝新会長の指導のもと、このような新体制がスタートしましたが、日常的には事務局を中心になって業務を処理します。必要に応じて総務部会を開きながら、事務局、財務担当理事と緊密に連携して業務を進めています。今後も公益認定を前提にした事務局体制の強化、財政基盤強化の見直しを進めていく必要がありますし、公益認定に向けての新組織を先取りした担務の編成替えにより新しく総務部が担当することになった組織部業務や婦人部業務をどのように展開していくかも今後の課題です。ご意見をお寄せいただくとともに、よろしくご協力をお

願いいたします。 （部長）

### ○育英事業部

平成二十四年度奨学金貸費生の募集については、例年どおり、理事会において決定された募集要項に基づいて置賜地域三市五町に所在する十四高校に周知方を依頼するとともに、各自治体及び地元報道機関に広報を依頼し更に本会ホームページ上に掲載して周知に努めました。

選考は、米沢有為会定款・規則による米沢有為会奨学金貸与規則に基づいて、次の要領で厳正に行いました。

- 選考期日及び会場 三月二十四日 米沢市伝国の杜
- 選考面接者 米沢有為会委嘱の教育委員（伊藤和夫

江川栄助、後藤浩、吉田美智子）

育英事業部（高橋勉、貝沼孝二）

選考面接者によつて選考された五名は、翌日・二十五日の理事会に報告されて承認され、次の通り決定しました。  
（部長）  
(氏名は五十音順)

### 安部高太朗

東京大学大学院教育学研究科入学・米沢興譲館高  
卒・米沢市篠野出身

**安部 雅俊**

中央大学法学部入学・米沢興譲館高卒・川西町上小

松出身

**神野 梓**

東北福祉大学総合福祉学部入学・米沢東高卒・米沢

市城南出身

**林 雄二**

白鷗大学法学院入学・米沢中央高卒・米沢市城北出

身

**水見 優太**

秋田大学教育文化学部入学・米沢興譲館高卒・南陽

市宮内出身

○**地域・教育振興部**

三月に、置賜三市五町の教育委員会、校長会、産業振興、関連部課等、商工会議所、米沢支部理事等から、各市町において、その年度、教育振興や文化の向上にまた産業振興や福祉向上に特段の功労があつた個人や団体等を内申していただきまます。それを受け本部教育振興担当と米沢支部教育部、本部産業振興担当と米沢支部産業部では、教育・文化功劳、産業・福祉功勞について基準に

従つて本部表彰者と支部表彰者の選考を行い、本部表彰者については、米沢支部長から本部理事会に推薦し本部理事会に諮つて決定していただきます。支部表彰者については米沢支部理事会に諮つて決定します。小学生・中学生・高校生については各種大会または競技会において極めて優秀な成績をおさめたものを表彰します。特に優れたものについては基準を設けて本部表彰とします。本部表彰以外は支部表彰とします。

二十四年度は、置賜農業高等学校教諭、江本一男氏を教育功労者として表彰しました。長年畜産を担当しながら、農業を軸にしながら多岐に渡つて地域振興等に関する活動を農業クラブの生徒等を指導しながら実践し、次々に多くの生徒を全国大会で入賞するまでに育て上げた実績が評価されました。また、全国中学校水泳競技大会男子平泳ぎ一〇〇m、二〇〇mで優勝した米沢市立第四中学校三年大久保琳太郎君とオーストラリアで行われた国際交流大会(FITC CUP PERE)に全日本ホッケーU-16の正ゴールキーパーとして出場し、第三位に入賞した川西町立川西中学校三年蒲生遼河君の二人を特別顕彰として表彰しました。

また高等学校卒業時における表彰は、昨年度は置賜地

区内の十四の高等学校のうちキリスト教独立学園高等学校を除いた各高等学校校長からの推薦を受けて本部理事会で決定し、各高等学校長に表彰状の伝達をお願いしています。

(部長)

### 二十三年度高等学校卒業生表彰 (二十四年一月表彰)

郷土の人材育成支援事業の一環として米沢・置賜地区の高等学校の当年度卒業生で学業、部活動、生徒会活動等で、特に優れた活動した生徒を各高等学校校長より推薦をいただいて表彰しております。

今年度の高等学校卒業生表彰者は次のとおりです。

奥村 駿	米沢興譲館高等学校 (川西町)
後藤 優大	米沢商業高等学校 (米沢市)
太田 悠斗	米沢工業高等学校 (高畠町)
竹田 瑛梨	米沢東高等学校 (米沢市)
手塚 千晴	米沢中央高等学校 (長井市)
大滝 幹美	九里学園高等学校 (米沢市)
飯澤 拓也	南陽高等学校 (南陽市)
飯澤 喜	長井高等学校 (長井市)
小形 優子	長井工業高等学校 (白鷹町)
鈴木 由里	置賜農業高等学校 (飯豊町)

### ○文化広報部

今年の文化広報部は通常の会誌編集とホームページの更新と思っていましたが、仙台興譲館と東京興譲館の寮生が激減していることから、募集の号外を出すことになりました。

三月に寮生募集プロジェクトを立ち上げ、できることからPRしようとのことでたので、号外二号として急速作成、各高校へ配布しました。七月に入り会誌六十二号の編集会議を行い、さっそく原稿集めをしました。編集会議では新たな発想が出ました。有為会の趣旨である人材の育成につながるものとして、先人の顕彰記事を載せようとのことです。各市町で隠れた先人がおりますので紹介することとなりました。今回は川西町出身の本間喜一氏です。愛知大学の創設に携わり第二代学長となられた方です。また郷土の歴史短信として、草木塔を取り上げることとしました。

なお会誌発行に関わり、各支部に廣告の掲載をお願い

佐藤 康弘	高畠高等学校 (高畠町)
鈴木 悟	荒砥高等学校 (白鷹町)
佐野 聰美	小国高等学校 (小国町)

しましたところ、仙台支部から申し出がありこの度掲載させていただきました。ありがとうございました。また引き続き広告掲載を快くお引き受けいただきました皆様に深く感謝申し上げます。

今公益法人へ移行する最終段階に入りましたので、二十五年度につきましては新たな体制でスタートすることになります。PR用のしおりや会誌のスタイルの検討も必要になるものと思います。ご意見などお寄せいただければありがたいです。（部長）

### 組織再編成に伴う各部の統廃合について

今まで活動してきた企画部、組織部、婦人部は、総務部に統合し、各理事がその業務を分担することになります。

また育英事業部は、教育部と企画部の一部の業務を引き継ぎ、有為会の育英事業の二本柱である興譲館寄宿舎に関することと奨学金貸与に関わる募集・選考を担当します。

新たに組織された地域・教育振興部は、教育部が担当している教育功労者表彰、産業功労者表彰と特別顕彰さらに卒業高校生の有為会賞表彰を担当することになります。

文化広報部は従来通り会誌発行やホームページを担当します。移行の際にはいろいろと気がつかず不手際もあると思いますがよろしくご協力を願いします。



総会で顕彰者を紹介する高橋部長

## ◎本部主要委員会の活動報告

### ○公益認定準備委員会

定款の変更の案の見直しをほぼ終了し、公益認定等委員会事務局との相談を進めていました。また、社団法人の基礎となる会員制度と財政制度の基盤を固める会費制度の詰めを行いました。

①会員制度は現在普通会員と特別会員に別れている正会員を一本化し、団体にのみ認めている賛助会員を個人に対しても認めようとするものです。②会費は普通会員と特別会員を一本化することに伴い普通会費と特別会費の中間の額とし、個人賛助会員についても従前の普通会費より多い額とする方向で詰めていますが、各支部から見なおしの要望が出ていますので、検討しています。

公益認定準備委員会事務局の大滝則忠さんが国立国会図書館長になられたことは、本委員会としては大きな打撃でしたが、大滝さんのご活躍を心からお祈りいたします。

### ○寄生募集プロジェクトについて 一、立上げの経緯

近年、寄宿舎の応募者数が減少している。平成二十一年度寄宿舎生応募者数は殊のほか少なく、東京興議館は十名募集に五名入寮、仙台興議館は八名募集に一名入寮となり、寮の運営が困難になるという危機感が募った。而接終了後に高橋勉育英事業部長・沼澤研一・東京興議館長・上村勘二が相談し、実態を調査し、それに基づく改善を図り、入寮生を増やすこととした寄生募集プロジェクトを立ち上げる必要性を認識した。寄生募集プロジェクトの設置を三月理事会に提案し、承認された。

現在、須貝会長からの委嘱を受けた、高橋勉、沼澤研一、滝口政彦、貝沼孝一、甲國信、梅津幸保、本多和彦、手塚修、鈴木幸一、佐藤毅、加藤国雄、鈴木信之、中川紘一、上村勘二の十四名のメンバー並びに寄生OB会が取組んでいる。任期は二十五年三月まで。

### 二、実態調査

進学を主とする五高校を訪問し実態と要望事項を調査し、管内一四高校に今年度の該当進学者数を調査した。実態は、見栄えのするポスターを作り、寄宿舎の号外を発行して寮をPRしたが、配布物はほとんど保護者に

渡つておらず寮情報は伝わっていなかつた。

有為会寄宿舎の必要性の有無について質問したところ、「無くなれば経済的理由で進学できない生徒ができる、是非とも必要」と、全高校が答えてゐる。応募が少ない理由として、寮の情報不足、個室でないこと、早期に宿舍を決めるここと、多い応募書類、東日本大震災被害を受け合格学校から宿舎を早期に確保するよう通知があつたことを上げていた。

また、今年三月卒男子進学者のうち、東京地区（四大・短大）で推薦・AO入試合格者三十八名、一般入試合格者六十七名、仙台地区（四大・短大・専門学校）で推薦・AO入試合格者九十三名、一般入試合格者六十名、であつた。大学進学者の約三分の一が推薦で決めていた。

### 三、実施・改善したこと

以上の実態調査で出された要望を受けて、実施・改善したことは次の通りである。

- ① 現在まで三高校の保護者進路説明会で、学生寮の紹介を寮生OBが直接保護者に学生寮紹介パンフレットを配布して説明した。今後も二校で計画している。次年度以降も高校の協力を得て継続して実施して行きたい。
- ② 推薦合格者を対象とした十二月の面接日を追加する。

③ 応募書類を簡素化する。（願書はA4一枚、源泉徴収票不要、入寮希望理由書不要）

④ 応募は、従来の置賜地区高校在学者及び置賜出身者の子弟に加えて、有為会会員の推薦による応募を認め、入寮生の確保に努める。

⑤ 寮情報の説明不足や誤解がある内容について、ホームページとFAQにより改善を図る。

### 四、今後の検討事項

今後の検討事項として、次の二点がある。

① 個室化について、東京は既に全室個室であるが、仙台は定員を多めにすることによる寮費の軽減や相部屋の教育的意義から、一年次のみ相部屋の可能が残されている。このことは是非については、保護者へ寮の紹介を行なうなど、一連の改善を行なつた今度の募集の結果を見て検討する。

- ② 生徒と保護者から生の情報を得たいものであり、推奨合格者などを対象にアンケート調査ができないかを検討する。
- 今後とも、要望に添いながら、改善を続けることにより、寄宿舎生が増加し、寄宿舎を継続的に運営でき、充実につながるようにしたいものである。（文責 上村）

## 「息子から見た我妻榮」

国際協力医学研究振興財団

常務理事 我 妻 堯 氏

我妻榮記念館名譽館長

元国際協力医療センター国際協力局長



米沢有為会の皆様、あるいは県の教育委員会、その他関係者の方々が、二十年間、この我妻榮記念館を維持してくださったこと、そして、歴代の館長さんがこの記念館を守つてくださったことに心から御礼を申し上げます。

私は記念館が開館の時に、二十年前ですけど、場所は違いますが、米沢でお話した記憶があります。その時の記録も手許にございます。私もこんなに長生きすることは考へてもおりませんでした。高森務先生「一〇四歳」には及びもつきません、高森先生から見れば子供みたいな者です。(笑)父が亡くなつて約四十年経つております。

今日の講演は二十年前と同じ話をする訳にはいきませんし、我妻榮も米沢で何度も講演を行つておりますが、その講演集を見ても、自分の身の周りの細かい事について話していませんので、父の身の周りのことについて、お話ををしてみたいと思います。

### 「我妻榮は何故法律学を選んだか」

文献などを調べて見ましたが、見つかった事も、見つからなかつた事もありました。例えば、

榮は、初めから法律学をやる積りではなかつた様です。お弟子さんが三人の法律学者に面会して聞いてまとめた『法律学と私』という本の中に、「何故法律学を選んだのですか」という質問に対し、父はこう応えて居るんですね。「私は事をやるときにはまず計画を立て利害得失を考えて決定するという性格では無く、なんと言うことなしに始めて行くという性格であった」とはつきり言つています。つまり、若い時から法律をやろうと決めて、法律学の道に入つたのではない、と言うことです。「その為に私は本来、旧制の米沢中学校の頃は数学とか物理・化学が好きでそれを一生懸命勉強した」。これは最近読んだんですが、私と少し似ているなと思います。私

は子供ですから似ているのだと思います。ただ、中学の頃から法律の勉強をした訳ではない、と言うことです。

その計画を変更して法学部に行くことにしたのは、家

に出入りしていた義兄、姉の千代と結婚している孫田秀

春が、我妻榮の父、つまり自雷様と申し上げた方が大きなインパクトがあると思いますが、自雷也と仇名がついた我妻又次郎、米沢中学校の英語の教師の所に学生達が

しおつちゅう集まって自由に議論をしていました。そこで孫田が「法学部に行くのが一番なんだ」と言う。彼は労働法を勉強していく、榮より四年程先輩でした。「法学部に行かなくてはだめなんだ」と盛んに説いていたらしく。最終的に法律の勉強に進んだのは、恩師鳩山秀夫先生のお蔭です。鳩山先生のお名前は、父がこちらで講演した時には出て来なかつたと思います。

## 我妻榮の恩師

鳩山秀夫先生は、今のテレビや新聞を賑わしている鳩山一族と関係ない訳ではございません。前首相の鳩山由紀夫や鳩山邦夫は政治家鳩山一郎の孫です。一郎の息子の威一郎は大蔵官僚で外務大臣をしましたが、政治家としては余り跡を継ぎませんでした。孫の二人が政治家と

なられました。皆様が鳩山という名を聞いた時に気にするのはこちらだと思います。鳩山秀夫先生は、後に首相となつた鳩山一郎の弟です。

鳩山先生は、父に非常に大きな影響を与えられています。

東大法学部で民法を講義しておられました。父が大学に入った時は鳩山秀夫先生の講義を聴いて、講義の後に榮がいろいろと質問をよくするうちに、親しくなつて家にも出入りするようになり、書生として一年間、泊めていたぐことになりました。鳩山先生は親切な方で、父の家に経済的余裕が無いことを知ると、鳩山先生が執筆中の著書『債権各論』の校正を命じて、現在で言うアルバイトですね、謝金として毎月十円を払うことまでしてくれました。

鳩山先生御夫妻はヨーロッパに何度も留学され帰つてこられた方で、當時としては非常に西歐的な家庭を持つておられまして、父は書生のように家に宿泊しながらも、米沢から出て來た山出しの男がカルチャーショックを受けました。

父の留学も鳩山教授の推薦で最初に米国に行きました。新聞に、父が米沢興譲館中学の英語の先生をしてい

たからアメリカに行つたんだろうと、間違えて書かれた方がおられましたが、そうではなくて、第一次世界大戦で負けたドイツは混乱状態で直接行けなかつたものですから、先ずアメリカに行つて様子を見ると、鳩山先生から言われたようです。米国滞在でのんびり八ヶ月居たのは或る人と会つて友達になつたというのは後でお話しますが、手紙をいただいて、アメリカでうろうろしているのは良くないから、ドイツに移動するように命じたのは鳩山教授でした。

ドイツでは、関東大震災で東京大学の図書館蔵書が壊滅致しましたので、新たにドイツの文献を買い整える命令も受けました。これは文部省の命令だつたようです。ドイツは第一次世界大戦後に非常なインフレになりますてマルクが安くなりましたが、日本から送金された金でより大量の書籍を購入できたそうです。

我妻榮が留学帰国後、間もなく「一九二六年（大正十五年）」身体を悪くされた鳩山教授は退官され、榮は教授の後を継いで民法の講義を始めることになります。

その後、鳩山先生は体調を崩して比較的若年で逝去されました「一九四六年（昭和二十一年）一月、六十一歳」。父は、赤井運次郎先生にいろいろと面倒をみさせてい

ただいたと同じように、未亡人になられた千代子夫人のお世話を長年わたりつて続けられました。この方は私もお会いしたことがあります。千代子夫人は甚がお好きな方で、家へ甚の先生を呼んで甚のお相手などをしていました。

### 父母の出会い

子供としては言ひ難いことで、皆様には興味があることでしょう。子供としてこういう話をする事はないなかなか勇気がいることです。法律家の間でよく言っていたのですが、今では覚えている人は少ないと思います。それは「我妻はインド洋でこいを釣つた」という表現で良く言われたようです。ドイツから帰国する時に父と母は一緒に船で帰つて来ています。私も英国留学を致しましたがその時は船で行きましたので五週間かかりました。

ドイツからだともう少し短いですけど、船の中で親しい船客同士が交際することは容易です。子どもの私としては何が起きたのか、想像できませんし、直接聞く訳にもいきませんし、聞いたこともありません。当時の船の上で撮つた集団写真では父と母は並んで写っています。當時としては、見合い以外の結婚は珍しかつたと思いま

す。関東大震災を経てやつと復興する時代ですから、その頃に恋愛結婚というのはあり得なかつたと思います。両親が恋愛結婚をしたのか、どのように知り合つたのか、子供から聞けませんから、私にも分かりません。ただこういううわさがあつたということだけでございます。当時としては、見合い以外の結婚は珍しかつたが、双方が教育者の子どもであつたことが幸いしたと想像されます。

### 子どもから見た両親の性格

私が思ひだすことと、両親の性格を比べて見ますと、父親は理論を大切にし、何事も論理的に解釈して納得しようとします。決して屁理屈を言うのではなく、他人の意見に良く耳を傾けました。それを論理的に解釈して納得しないと「うん」と言わないという所がございます。母親は感性に富んでいて何でも直感的に判断して実際に行動に移す、ということでありますから、かなり違った性格を持っておりまして、かえつて都合が良い夫婦を作り出していたものと思われます。

### 我妻榮の自宅

家のことを、父は米沢ではあまり話さなかつたかも知れません。昭和初期に一時期田端に住んでいました。私は昭和五年に生れていますが、昭和二年頃に板橋区、現在は練馬区になりましたが、当時の板橋区石神井南田中町に家を建てました。都心からの交通は西武池袋線、当時は武藏野電鉄という私鉄です。今では考えられないことに行動し実行に移します。好奇心に富み物好きです。母親の両親は、私の祖父・祖母に当る訳ですけれども、音楽教育の専門家で、上野の芸術大学を卒業し、西洋音楽を日本の教育に取り入れることを目指しておりました。その芸術的な性格を受け継いだ節もあります。母の父

親「鈴木米次郎」は、例えば、関門海峡に初めてトンネルが出来て汽車が動き出した最初に、ここへ行つて乗つたという物好きな所がありました。

両親はかなり違った性格を持っています。父は理屈の方、母は感性に富んでいて何でも直感的に判断して実際に行動に移す、ということでありますから、かなり違った性格を持っておりまして、かえつて都合が良い夫婦を作り出していたものと思われます。

からは「榮は頭がおかしくなつたのではないか」と言わ  
れたという時代でございます。

松林の山を切り開き、前には広々と田圃が広がり、石  
神井川というかなり大きな川が流れていきました。周囲に  
はかなり広い畑がありましたし、書斎の窓から富士山も  
見えました。本当に田舎だったんですが、現在は都会の  
一部と化しています。西部池袋線なんかも交通の便もよ  
くなり、駅もかなり大きくなりまして、この時代とは考  
えもつかない位変わっています。

自宅は西洋式でありまして、東南の方にサンルームがあ  
つて天井が磨りガラスで出来ています。雨戸といつて  
も開き戸戸戸でありまして、鎧がついているヨーロッパで  
見るような開く扉で、日本風の引く戸ではありません。  
離れには、六畳、八畳、四畳半の和室を設けてあります  
して、祖父の隠居所になつていましたが、私が生れた時  
には、そこで産婆さんが取り上げたらしい。祖父母や叔  
母の病室に使われていた時代もあります。

本館は母がフランス留学時代の経験を生かして設計し  
たらしいです。一方で食堂には米沢から持つて来たらし  
い大きな茶箪笥がはめ込まれていましたことを、私は今  
でも憶えています。

時代とともに住む人も変わりまして、戦時中は母方の  
叔父、叔母、いとこが命からがら逃げてきました。一時住  
んだこともあります。五月二五日頃の東京大空襲に焼  
け出されて逃げてきました。私達も結婚後住んでいたこ  
ともあります。戦災で燃えることなかつたことは幸いで  
した。

### 我妻榮の書斎

うまく図が書けないんで口で説明させていただきま  
す。上部の灯り取りの窓とベランダへの出口、書斎の入  
口、階段を上がった所にあります、を除いた周囲の壁に  
は、全部天井まで届く書棚が設けてあり、多くの書籍、  
大部分は洋書です、これが全部取り巻いておりました。  
父がドイツから買ってきた本も入っていると思います。  
子供の頃から父の書斎に入りますと、全部本棚であると  
いうことが強い印象として憶えています。ここに父の勉  
強机がありまして、机にいつも座つて、原稿を書いたり、  
学生の答案を見ているという生活をしておりました。  
応接間としても用いられていましたから、椅子やソ  
ファなどの応接セットが置かれていました。

## 親子芸は立たない?

「親子芸は立たない」という言葉は、インターネットで調べても出て来ないのです。留学初期に英語で苦労した為だと思いますが、最初は自分でやさしい教科書を買い、兄と私に教え始めました。これは、鳩山教授が息子

さんに英語を教えていたので、家庭における親子教育が成功しているのを見習ったのかも知れません。

「親子芸は立たない」いう言葉は、祖父の性格を言わないと理解して貰えないと思います。祖父は米沢興農館中学の英語の教師をしておりました我妻又次郎、この方は自雷様という、自雷也ではなく、米沢の方は非常に丁寧ですから、先生を呼び捨てにするようなことはしないで、自雷様と呼んでおられたようですが、非常に瘤瘤持ちなんですね。それは多少私にも遺伝しておりますし、父の方には遺伝したかどうかは分かりませんけど。

祖母が祖父に、家に来る興農館の学生だけでなく自分の子にもちゃんと英語を教えるように話したらしくです。自雷様も父に英語を教えかけたんですけど、瘤瘤持ちなので、直ぐに怒つてどなりつけるというのでちつと

も子供の英語は上達しなかったそうです。それで父はよく親子芸は立たないと言うのですが、インターネットで、ことわざ辞典というので調べて見ても出て来ないんです。ですから、米沢にこういう古い言い伝えと言うかことわざがあつたのかどうか、私が教えていただきたい位です。

いずれにしても、やはり親子芸はうまくいかないと思つたのか、間もなく一世のお嬢さんが来るようになりました。その後は荻窪の衛生病院、今でもあるんですが、その当時の北村医師がアメリカ人と結婚して居られました。この方に頼んで私と兄の兄弟二人で英語を習いに石神井から荻窪まで、その当時自転車で三〇分位ですから、若い小学生にはどうということはないんで、荻窪まで自転車で通つた記憶がござります。

## 小学校・中学校の選択も恩師に倣つたのでは

今度はインターネットを見て、びっくり仰天したんですが、今まで知らなかつたんですけど、鳩山教授は、東京高等師範学校、現在の筑波大学の附属小学校・中学校を卒業されています。私と兄の兄弟も同じ学校に入学しているんです。



入学させられたのだと思いますけど、気が付いた時に入学していました。附属小学校の入学試験は、今でも憶えているんですけど、何となく入れるようになれるように試験官が誘導する、今と違つて、その程度のやさしいものでした(笑)。気が

付いた時には、附属小学校に入っていました。小中一貫校ですから上に行つたんですが、私達兄弟が同じ学校に入学させられた(?)のは教授の薦めによるのか、父が恩師と同じ道を歩ませようと願つたのか、今となつては知る由ありません。

最近になってインターネットで、鳩山秀夫という所を引きますと、経歴という所に、東京高等師範学校附属小学校・中学校を卒業したと出でおりまして、その事実を知つて驚いた次第です。

母方の祖父である鈴木米次郎も音楽教師として附属中学校で教鞭をとり、校歌を作曲していますから、母方の祖父もこの学校のことは知つており、母親に対しても「あの学校は悪くないよ」と言つて、影響があつたのかも知れません。その辺はいまさら聞く訳にもいきませんし、推察しているだけでございます。

### 子供の勉強指導は母親の役目

書斎で本に囲まれて机に向かっている父親を見ていると、それが当たり前のことのように思われて、自然と机に向かうようになったのかも知れません。そうは言つても、私は子供の頃は勉強が嫌いでありまして、大分母親

を悩ました様であります。本気になつて勉強を始めたのは敗戦後です。

私の学生時代は、年配の方はお分かりでしょうが、小学校に入った時に日支事変が始まり、大陸で侵略が始まり、南京陥落で提灯行列をやらされた憶えがございま

す。中学校に入った時は空襲だけで、中学校は燃えてしまいました、勤労動員ということで終戦まではほとん

ど勉強などというものは、我々の頭の中には無い時代だつたんです。ですから本当に勉強を始めたのは敗戦後であります。

昭和二十一年に旧制の第一高等学校の受験の時、その受験勉強というのは一月・二月の冬休みなんんですけど、自分でも相當に勉強をしたと思います。その期間だけは机に向かつた時間が、父が机に向かっている時間よりも例外的に長かつたと記憶しています。父はどの学校に行けとは言わなかつたのですが、やはり自分が米沢中学から旧制の第一高等学校に入りたいと思つて苦労したことを思い出したか、同じことをして欲つていたのでしようか。私が第一高等学校に合格した際に、父は先程の書斎において、どなたか面会の方が、女性の方ですけど、お弟子さんの奥様が身の上相談に来られた

らしいんですけど、そこへ行つて「一高に受かりました」という報告をした時に、父が握手をして泣き出したんですね。私は今でも非常にはつきりと記憶に残つております。やはり自分と同じ道を歩ませたかったんだな、という感激が残つています。

### 息子の進路や勉強には干渉せず

大学で何を勉強しろとか、将来どのような職業を選ぶようにと、言う事を父から言われたことは一切ございません。私の同僚とか仲間或いは友達に、親御さんから子供の時から何をやれと言われて、入学先まで父親が面倒を見て、帰つて来たらどこに就職しようと、全部父親の命令に従つて動いたという友達もおりました。

父はそういうことは一切申しませんでした。兄の場合も、最初はドイツ文学と詩に憧れて、リルケとか、ドイツにいかけてしまつてしまって文学部に入学しましたが、後に心理学、社会心理学、文化人類学と転向しまして、それについても父は何にも言わなかつたです。

私は、物理・化学が好きだつたのですから、大学の教養学部では理科一類に入学しまして、将来は工学部に行こうかなと考えていましたが、次第に生物に興味を持

つようになりまして、その当時は学制改革の時で旧制高校の卒業生と教養学部の学生とが、同じように東大医学部の試験を受けるという変な時代だつたんです。従いまして入学試験をもう一回受け医師になりました。その際にも、父は「医者になるのか」と言つただけで、反対はしませんでしたし、別に賛成もしなかつたのです。とにかく、息子の進路とか、勉強の方針とか、将来どうするかということに対しても、一切干渉しない人でした。

ただ、一つだけ反対しましたのは、軍人の道に興味を示した機会にのみございます。

年配の方は憶えがあるかと思いますけど、戦争が段々と激しくなってきますと、中学生の間では、予科海軍技術学校とか予科海軍経理学校とか予科兵学校とか、そういう所を受験するということがやり始めました。実際に通つて戦争に行つた人はいなくて、かえつてそういう所に入つた仲間の方が良く勉強をして、戻ってきた時には、我々よりも勉強の時間が多かつたという経験があります。私も予科海軍技術学校や予科海軍経理学校などを受験しようかと相談しました。親父は積極的に「駄目だ」とは言わなかつたです。「君にとつては大学に進んで勉

強する方が國の為になるのでは無いか?」という間接的な表現で許可はして貰えませんでした。

似たようなことが、文献で父の本を読んで見ますと、若い学者を指導する場合にも、頑張つていろんなことを主張する人に對して、頭からその説や主張に反対する訳では無くて、「こういう場合はどうなのか?」とか、「そう言つたら、こういう時はどうなるのか?」とか間接的にいろいろな質問をして、考え方を改めさせていく方法をとつていたと思われます。私の場合にも、父はそういう論し方をしたんだと思います。

## 我妻榮の別荘（一）

我妻榮は別荘を二つ持つています。米国留学中に偶然、軽井沢でその当時の地主である市村夫妻、早稲田大學教授になった方です、と友達になり将来市村さんが持つてある土地を分譲して学者の村を創りたいと、父に相談されまして、それはいい考えだと賛成しました。これは関東大震災の前ですから、随分昔の話になります。このことは市村夫妻が書いた本などに出ています。その後、関東大震災やドイツ留学などを経て、その夢を実現したのは、昭和八・九年頃です。

榮は大学時代の友人、弁護士の成富信夫を誘つて隣りに別荘を建てるように勧めました。別荘が建ちまして、今年で八十年程になります。隣同士で幼い頃から知り合つたのが、今日来ております私の妻です。

榮にとつて、軽井沢に行つて何が楽しいかと言うと、その当時は農業用水を溜めたダムがありました。今は見る影も無いです。そこに行きますと高速道路が通つていて、戦後に農業を止めて、桑畑を止めて民宿を造り、テニスコートを造つたという土地にしました。その当時は田圃の中を歩いて行くと、農業用水のダムがありまして、そこで釣りをするのが楽しみになりました。

父は身体が弱く、又次郎祖父さんに釣りに連れて行かれた。米沢のどこかは分かりません。子供の頃から釣りには随分行つたようです。軽井沢で釣つた鮎を囲炉裏の周りで干したり、時には鯉を自分で釣つてくる場合もありますし、釣れない時は家内に鯉を買わせて、鯉を自ら料理するのも楽しみだったようです。従いまして、軽井沢の生活は、彼にとつては、米沢の生活を思い出すような事もあつたんではないか、と思つています。

## 我妻榮の別荘（一）

軽井沢は静かで夏は涼しいです、私もほとんどそちらに住んで居るんですけど、冬は非常に寒いです。米沢ほどではないかもしません。雪は少ないですけども、それでも冷えます。冬の勉強部屋として真鶴が選ばれました。真鶴は湯河原のちょっと手前です。

父は足首の関節の炎症でありますけど、当時の東大の整形外科の偉い先生は、結核性の関節炎ではないかと、レントゲンではそうだつたようです。関節炎は温泉がいと言われますけど、当時の医学知識では炎症性の関節炎は暖めると良くないと言われていたので、温泉の近い湯河原や熱海を避けて、友人がたまたま別荘を持って居られた、その方の勧めで真鶴を選んだと思われます。

高台にあつて非常に眺めが良く正面に初島や天気が良いと大島も見えました。榮は晩年に原稿を書くために、この時には退職して本を書いていました。別棟の書斎を建てましたが、その建築も母が設計しました。母は設計することも大好きでした。

近くに蜜柑畠もありました。現在は「ホテルラシエネガ」になっています。もし、御希望の方が居られまし

たら、インターネットで調べてください。我妻榮の元別荘だったとは、書かれていませんが、分かると思います。

### 榮の健康状態

昭和の初期に左足首の関節炎に罹患しまして、結核性と診断されました。当時の治療法は何もないんですね。

今のように抗結核剤があれば、内服と局所に注射をすればそんなにひどくならずに済んだと思います。当時は安靜と放射線治療、日光療法程度で効果が薄かつたようです。

左足首を固定するギブスを装着しました。当時は鉄で出来ていて、今のように軽いプラスチックとかアルミニュウムというのが無かつたのですから、かなり膝に負担がかかるような器械というのを装着しました。その負担で今度は膝関節も腫れてしましましたから、股の所まで届くような器械をかけて、松葉杖を用いるようになります。記念館に器械が置いてあります。それをご覧になると、如何にその時しんどかったをお分かり頂けると思います。

彼はその当時は運動不足にはなつてはいけないと、言ふんで、最初は弓を引く。庭が広かつたのですから、的

場を作つて半弓を引いていました。その内に段々身体の調子が悪くなってきたんで玉突台を設けて、それを突くことで運動を補いました。その後は自己流の体操で上半身の運動をしていました。

停年退職後は、その当時では珍しいのですが、現在で言うドックを、定期的に健診を受けており、レントゲン検査で初期の胃がんが発見されて手術をしております。レントゲンで見つかったのが初期ですから、担当の先生は診断能力の非常に高い方でした。ただ現在のように内視鏡による手術はありませんでしたので、当時行われていた胃がん手術後には胆囊炎を起こしやすいことは知られておりました。発熱と腹痛で入院しましたが、全身の抵抗力が弱っていたのか、足が悪いと運動不足になつて、ショック状態になることがありましたので、細菌の毒素によつてショック状態から回復しませんで、一九七三年〔昭和四十八年〕十月二十一日〔七十六歳〕に永眠しました。

解剖の結果では胃がんは完治していましたので、胃がんの再発ではありませんでした。

## 英語では父親を越えたか?

父はわざわざ英語を教えてくれたと申しましたが、兄は戦後大学を卒業後に米国に留学し、心理学を学び、一度帰国して甲南大学の助教授になりましたが、再度米国に留学し米国の諸大学で教授として就職しました。その後東京工業大学の教授になり、残念ながら早く亡くなりました。

私は一九六一年〔昭和三十六年〕に英国の留学生試験に合格し、英國の病院で約一年余、更に米国に渡つて約三年間研究を続け、合計四年間も英米に居ました。帰國後には機会を得て国際協力、政府開発援助 ODA の仕事にも従事しましたので、二人とも英語に関してだけは父親を越えられたのでは?と思っています。

## 親子の対話

親子の対話はどうなつていたかと申しますと、私が産婦人科医としての経験を話しますと、父はそれに関連する法律的な考え方を述べてくれました。

例えば、実際に私の病院で起こった事件なんですが、出生証明書偽造事件があります。結婚していないで子供

が生まれそうになっている妊婦、これは今でもありますね。一方で医者の知っている子供が欲しい夫婦があり、それを知っている医師がその夫婦の間に生れた子供であるかのようないい訳です。それは出生証明書偽造であり、同時に父に言わせれば、勝手に養子にしたようなことになつてしまふので子供の人権を無視したことになる。公文書偽造と同時に人権問題にもなると、父は話してくれました。

また、帝王切開の後に死亡という事故がありました。手術後に看護婦の資格の無い女性に全身状態の管理を任せたために血圧低下を見逃して死亡させた。私の医師という立場からは、明らかな医療ミスです。父に話したところ、父は、そのような施設では手術を出来ないと法律を定めた方が良いという考え方を話されました。医事法学会での議論となります。

今の日本の医療制度では、診療所と病院の二種類があるかのように世間の人は誤解しておりますが、診療所と病院で行われる医療には法律的な制限や区別はないんです。ですから、診療所で帝王切開をやつても、極端に言えば心臓移植をやつてもいいんです。いけないとどこに

も書いていないのです。法律もないんです。設備や人手の少ない施設で困難な手術や処置をしますと、事故や合併症による障害や死亡などが起こります。法律的に区別を設けるべきですが、診療所と病院の両方が同じ仕事をしてもいいよ、としないようにした方が良いということなんですが、未だに実現していません。医師会もそのような動きを示していません。

このように、私が現実に起きている医療上の経験を話しますと、法律的な考え方は父が示すという、そのような親子の対話が成立しまして、医事法学会には二人で会員になつていきました。その後息子も入つて三人になりました。今は、父が亡くなつて会員は二人です。

最近新聞を賑わしている話に、精子提供による不妊治療もあります。夫婦間に限るべきではないかとか、第三者の精子提供を認めるかと、いう問題です。専門的な話になつて申し訳ありませんが、私は医師でございますので、そういう話を父としたということです。昔から某私立大学では学生の希望者に謝金を与えて精子を提供させ、男性不妊の女性に使用していました。最近、そういう話を自分が知つて自分の父親を捜すという運動が始まっていることが、新聞に出ていましたし、私も補助生殖

医療の講演を或る大学の法学部の学生に行いました。講演後に一人の学生が、母親から「お前は仲々出来なかつた、やつと出来たんだよ」という話を聞いて、突如として男性不妊の某大学の学生が父親ではないか、ということとで私に質問に来ました。結局、それはそうではなかつたということが分かつたんですけど。

しかし、「第三者の卵子提供まで認めるのか」という最近の話題があります。最近の医療技術の進歩は、外国にまで行つて第三者の卵子を貰つてきたり、体外受精した卵を第三者のお腹に植える訳ですね。それは、借り腹と呼ばれる子宮の提供まで可能となつております。そういう新聞記事が時々出でています。これが果していいのかどうか、もし、父が生きていたら意見を聞きたいなど感じております。これは生命倫理学会で議論している問題であります。

### 我妻榮が遺した家族

兄の洋は不幸にして比較的若く食道がんで逝去しました「一九八五年（昭和六十年）五十八歳」。

私の家内は、隣の別荘におりまして、父親が弁護士で、若いうちから私の家に入りまして、嫁さんになる前から

嫁さんのような仕事をしていました。法律的な考え方には興味を持ち、母も民法改正で新しく戦後に家庭裁判所が出来た時に、家庭裁判所の家事調停委員を務めたんですけど、家内も姑と同じく家庭裁判所の家事調停委員を二十年務めまして、五年前に藍綬褒章をいただいております。

孫で長女の美佐子も米国留学から帰国し、三児の母となりましたが、世襲ではないんですけど(笑)、現在は三代目の家事調停委員を勤めています。

孫で長男の学は、現在首都大学東京、旧都立大学、で民事訴訟法の教授をしております。ですから法律に関してはマジョリティであります。私はマイナリティの医者なんです(笑)。

四人の曾孫たちが居ます。成長してどのような道を辿るかは未知であります。

以上で私が準備しましたスライドは終りです。もし、御質問があればお受け致します。

皆様の御健康をお祈りします。御静聴に感謝致します。(拍手)



講演の後、記念交流懇親会で奥様と同席される講師。右は米野東京支部長

## 私の志——二十四年度獎学生の作文

### 教育学者を目指して

安部 高太朗

私の大学進学時の志は、国語科の教師になるということでした。しかし、実際に教育実習で中学校に「教師」として行ってみて教師になるという当初の志は変わりました。現場の厳しさ・難しさに直面し、「教師」であることや教育という営みそのものに様々な疑問を抱いたのです。そして、これがきっかけとなり、その疑問を追求すべく教育学者となることを決意しました。現在、最も疑問に思っていることは、教育における評価はどうなっているか、評価するとは何かといったことです。この問いに言語（活動）という観点からあれこれ考えを巡せています。

東京大学という環境は、切磋琢磨しながら研究できる所だと考えます。このチャンスを最大限に活かすべく精

進いたします。

### 法曹界で活躍したい

安部 雅俊

私は幼い頃から社会を正す職に就きたいと考えてお  
り、将来は法曹界へ入って弁護士か検察官となつて活躍  
したいと考えております。現在、法曹界には厳しい風が  
吹いていると思います。代表例として、相次ぐ検察官の  
不祥事や法学部志望の学生減少に伴う法曹数の減少と質  
の低下、法科大学院等を始めとする司法改革についての  
批判が挙げられます。私があえてこの厳しい状況下の法  
曹界へ身を投じようとしているのは、幼い頃からの夢と  
いう理由のみからではありません。司法が傾けば国もま  
た傾きます。これから日本を担う若者の一人として、  
私は微力でも法曹界の改善に尽力していきたいと思いま  
す。

また、私は興譲館の大先輩である我妻栄先生の法学に  
残した功績に大変興味があります。法学は單なる学問で

はなく、人々に直接適用される実学です。我妻先生の功績だけでなく、それらがいかに人々へ影響を与えたかまで掘り下げて学んでいきたいと思います。

## 医療ソーシャルワーカーを目指して

神野 梓

私は将来、医療ソーシャルワーカーになることを目指しています。大学では、そのために必要な社会福祉士の資格を取得し、幅広い知識と技術、また患者さんやその家族の方が抱えている問題に適した指導やアドバイスができるよう、的確に状況を把握し判断する能力を学びたいと思っています。また、サークル活動や学校での行事、ボランティア活動に積極的に参加したいと考えています。多くの人と関わり、広い視野を身につけ、コミュニケーション能力を養いたいです。大学でさまざまな経験を通して、自分の人間性を磨くことも大切にしていきたいと思います。そして、相手の立場に立つて考え、何を望んでいるかを理解し、安心して相談できるように、優しく

さと温かみを持った信頼感のある医療ソーシャルワーカーになりたいと思います。将来は地元の医療機関に就職し、志を持って、医療ソーシャルワーカーとして社会に貢献したいと考えています。

## 視野を広げ研鑽を積む

林 雄二

私は幸いにして、衣食住に不自由を感じることではなく暮らしてきましたが、世界には食事も満足にできない国がたくさんあります。この世に生まれた限り、貧富に拘らず、衣食住は素より、教育が全ての人に保証されるべきだと思います。

社会の歯車の一部でしかない私に、一体何ができるのか、今の時点では具体的にはわかりません。しかし、世界へと視野を広げ、研鑽を積み、知識と教養を身につけて、少しでも平等な世界に近づくように努めていきたいと考えています。

大学では広く世の中の仕組みと動向を学び自分のすべ

き仕事を見つけたいです。また、世界へ目を向けると同時に、東北人としての気質を活かし、どのような状況下におかれても柔軟に対応し、どのような環境においてもたくましく生きていこうと思います。

が出来ております。

以上の二つの取得を大目標として、毎日小目標を掲げながら日々の学びにおける活力とし、生活したいと思います。

## 英会話と教授力を養う

水見優太

私は大学生になるにあたり、是非とも見に付けたい能力があります。一つは英会話能力です。高校生活においても、英語で会話をする機会は限られます。大事なことは不意に英語で話しかけられた後の即応力だと考えています。それには慣れが必要です。そのためにも、英語に触れる機会を増やしたいと思います。

もう一つは、教授する力です。学校教育に関して学びますので、必然的ではありますが、確実に身に付けたい能力です。また私には強みがあり、高校生活にて劣等生として過ごしたことが挙げられます。よつて、同じような心情の方に、親身になつて助けになろうという心構え

この奨学生五人の志については、面接時に提出いただいたものです。

サブタイトルは編集会議で提案あり、文化広報部長がつけたものです。  
ご諒承ください。

平成24年9月現在

## 置賜地区等高等学校卒業生の寄宿舎、奨学制度利用者10年間推移表

(総務部調べ)

	H15年		H16年		H17年		H18年		H19年		H20年		H21年		H22年		H23年		H24年		合計(名)												
	東京 興 議 館	仙 台 奨 学 金 貸 費																															
米沢興譲館高校	4	1	2	3	3	5	5	1	3	4	2	3	1	1	4	2	2	1	3	3	3	2	1	3	2	4	1	3	30	15	30		
米沢東高校			2	1					1	1								1	1				1	3	1	1	5						
米沢工業高校						1									1									0	1	1							
米沢商業高校										1							1								1	0	1						
九里学園高校									1											1	1					1	1	1					
米沢中央高校			2	1	1				1			1	2		1			1	1							1	5	4	3				
長井高校						1			1				1		1	1	1	3	1	2							6	3	3				
長井工業高校				1								1									1						1	0	2				
荒砥高校																										0	0	0					
南陽高校		2		1								1											1				2	3	0				
高畠高校																						1	1			1	0	1					
小国高校																										0	0	0					
置賜農業高校																										0	0	0					
山形東						1		1	1							1			1							2	1	2					
山形中央								1																		1	0	0					
日大山形										1	1															1	1	0					
山形工業																	1									0	0	1					
その他					1								1					1		2					1	1	1	6	1	1			
計(名)	4	3	4	8	5	6	8	3	5	8	2	5	4	4	5	5	5	3	9	4	9	5	2	4	4	1	5	5	2	5	60	31	51

## 米沢有為会『文化大学』

米沢有為会では、各分野における新たな価値の創造と地域社会とのコミュニケーションをより活発にするため、米沢興議館寮（調布市）に「文化大学」を開講し地域住民にも公開しています。

多才な会員の中から、その分野に造詣の深い方々に講師をお願いし、これまで、初回（平成二十二年十一月）は、安部三十郎米沢市長、第二回（平成二十三年七月）は上杉邦憲名誉会長から、それぞれユニーク且つ示唆に富む講話を拝聴することができました。（概要前号掲載）今回は、第三回及び第四回の講演につき、その概要を報告いたします。

### 第三回文化大学

平成二十三年十一月四日(日)

大震憾した三月十一日に起きた地震、津波、原発事故は、私たちに何を問いかけているのでしょうか。かつて、上杉鷹山公が殖産興業に取り組んで地域を復興したような智恵は今回の震災に生かされるのでしょうか。

第三回の講座は、文化大学・下條学長に本人のライフ

ワークとして、日頃取り組んでおられる環境と人間との課題について語っていました。  
そして、前座として、花角美智子 調布市生活文化スポーツ部長に調布市の自慢についてお話をいただきました。（米野文部長）

### 来賓ご挨拶

冒頭、来賓としてお招きした地元入間町自治会の高橋会長から、同自治会主催の祭りのイベントで「米沢の芋煮」を取り入れ大変好評を博したことや、前回の文化大学で「はやぶさ」の帰還について、上杉名誉会長が講演されたもようを、会員全戸に配布している広報誌に掲載し、米沢との結びつきをPRしているとの紹介がありました。

さらに、今後とも米沢の方々との繋がりを大切に、地元に根付くお付き合いをしていきたいとのご挨拶をいたしました。また、今回は、地域住民との交流の輪を更に広げるべく入間町自治会に加え、若葉町自治会代表にもご出席いただきました。最後に、須貝会長から、この文化大学が「持続可能」な事業として今後も継続していくとの抱負が述べられました。

## 講演その一

・要旨 地球環境の観点からその課題を中心に「割り箸から宇宙ゴミ、果てはビッグバンやCOP17」に至るまで多岐且つ長時間にわたる熱演で、内容の一部を已む無く割愛されるほどでした。

- ・講師 調布市生活文化スポーツ部長 花角美智子
- ・演題 「調布市の自慢ばなし」

|| 調布市観光マップを辿って ||

・要旨 昨年のNHK連続テレビ小説（漫画家水木しげる氏の奥様の小説がドラマ化された）「ゲゲゲの女房」では調布市が脚光をあびました。日活や角川大映の撮影所、深大寺、神代植物園、国立天文台、近藤勇の生家跡、武者小路実篤記念館、実篤公園があります。

近年では世界的に有名な建築家、安藤忠雄氏が設計した調布市せんがわ劇場、東京アートミュージアムなどの建物が道の両脇に続く仙川駅前通りは文化芸術の創造および発信拠点として人気が高まっているそうです。調布市的人口は現在二十二万三千人を超えるとのことです。（「東京支部だより十一号より転載）



はじめに、下條前会長の原点ともいえるボランティア活動（環境省環境カウンセラー・NPO法人「神奈川県環境学習リーダー会」）に言及され、小・中学校、自治会、子供会等で実践してきた「環境問題に関する取り組み」の紹介がありました。それは、エネルギー、省エネ、エコロジー等を実体験の方法で理解してもらう手法で、画一的な講義形式ではなく、実践をベースにしたワークショップ形式による体験学習であることが強調されました。

統いて、現実に地球環境で発生している諸問題は、自然や社会のなかに内在する様々な「循環のスパン」と「スピード」が、人間の色々な営みの「循環のスパン」と「スピード」によってバランスが崩れることにより惹き起さられるとして、具体的な現象として、人体、深層海流、水、森、地球上の元素、景気などにある「循環」が攪乱され、地球環

- ・講師 講演その一  
・講師 米沢有為会 前会長 下條 泰生
- ・演題 「地球は今…」

|| 持続可能な社会を環境の視点から考える ||

境の悪化、地球温暖化をもたらしていると指摘された。

これらのことから、持続可能な社会とは、有限である「自然の循環」の範囲内で世代内・世代間・地域間の環境と福祉の同一性（格差ゼロ）を保持するために、人間「営為の循環」の制御可能な社会であると述べられた。

持続可能な社会の実現には、一人当たりの生産性の枠内で生活するというライフスタイルの大転換が必要である。最近みられるスマートライフ、老莊思想（無為自然（じねん）、企業レベルでは、家庭内で自然エネルギーによる電力需給をスマートメータードグリーン経済が注目されると指摘された。

さらに、持続可能な社会の構築には、経済・社会の仕組みとして消費者主権や二元代表制を補完する住民直接参加型として、地域分権に基づく市民自治条例による住民投票や自治会・NPO・専門家で構成する地域協議会の実現が大切であると強調された。

講師は、良寛和尚の

### 「焚くほどは風がもてくる落葉かな」

の句を示し、落ち葉は、焚くほどは（焚く分だけ）風によつて自然に運ばれてくるもので、人間の作為は介在しない。焚くとCO<sub>2</sub>の排出はあるが、木は既にCO<sub>2</sub>を吸収しカーボンニュートラルであり、自然循環の知恵がそこにある。これこそが持続可能社会を象徴する環境問題のエッセンスで、「この句がすべてであり、いろいろお話をしたのは『付けたし』に過ぎない」とジョーク、最後に、地域や共同体で自分の身の回りの環境、福祉などの課題を発見し解決のためP・D・C・Aの循環を回し続けることで社会の持続可能な発展、ひいては有為会の成長が期待できるとし、熱演を終えられた。

## 第四回文化大学

平成二十四年五月十九日(土)

日本は今「人口減少・超少子高齢化社会」を迎えようとしています。日本の未来図をどう描き、若者に何を期待し、各自治体はもとより、地域社会をどう再構築すべきなのか一人ひとりの日本人に問われております。

そこで、第四回米沢有為会「文化大学」では、須貝会



長に自分の仕事を通して若い青年たちに想像力を生み出す知恵について語っていただき、高橋自治会長には地域社会（入間町一丁目）と寮生との絆をどのように創るかというテーマで寮生への思いを語っていただくことにしました。

（米野支部長）

### 来賓ご挨拶

講演に先立ち、**入間町一丁目 常任顧問・小島勝美様**からご挨拶があり、行政と自治会とが協調して取り組んでいる「防災教育及び訓練」についてご紹介があり、今後とも、両者が問題意識を共有しながら取り組むことの必要性を強調された。

### 講演その一

- ・講師 調布市入間町一丁目自治会長 高橋 兼松
- ・演題 「地域社会（入間町一丁目）と寮生との絆をどのように創るか」
- ・要旨 先ず、入間町一丁目の人的概況についてのご紹介がありました。◆（人口）三、三〇〇人 ◆（総世帯数）一、四六〇世帯 ◆（自治会世帯数）六三〇世帯（自治会加入率）四三%



加入率が低いのは、最近の集合住宅入居者は、若年層が多く、自治会への関心が希薄であることによるものとの見解。自治会の主な業務は、防災、交通安全、防犯、環境、福祉などで、行政各機関と連携しつつ任務を遂行しているとのことです。

次に、**興譲館寮**との関わりについては、十数年前迄は、いろいろな触れ合いがありました。現在のバス停辺り（寮の前面）にテントを張り野球大会の本部として使わせて頂いたりしました。その後、工事で使用出来なくなつて以来、互いに疎遠になり交流の機会がなく残念に思つていたところでしたが、一昨年頃から、また交流再開の動きが出てきて大変喜んでいます。

昨年は、祭りの際「米沢の芋煮」をたくさん戴き、年寄から子供まで大喜びでした。また、年末に実施した「年末特別警戒」には、大勢参加していただき感謝しています。

このように、最近は良い関係にあり喜んでいるところです。この関係を一層深化させるには、気軽な挨拶や声掛けなど日常レベルの付き合いを深め、互いに顔見知り

の関係を築くことが重要ではないかと思つてゐる。まさかの時の対応は、日常の絆を深め醸成しておくことによつて達成されるものと思うので、寮生の皆さん、よろしくお願ひしたい。

## 講演その一



## 質問 & 要望

- ・講師 米沢有為会 会長 須貝 英雄
- ・演題 創造性開発とMOT（技術経営）について

- || これから日本の日本を創る学生・社会人へのメッセージ

### ・要旨

近年の日本は「技術に勝つて、競争に負ける」という悔しい傾向にあり、その現状

を打破するためには、どうしてもイノベーション（創造性開発）が不可欠である。ここでイノベーションとは、「技術」だけを指すのではなく「マネジメント」そのものを含んでいる。

そこで創造性開発の「手法」「考え方」を理解し学習することが求められる。アプローチの仕方にはいろいろあるが、特に「フレーン・ストーミング」と「KJ法」が広く用いられている。

講演は、これまで企業や組織のコンサルティングで用いられたレジメに従い、「創造性開発」に関する専門的な解説が中心に進められた。

### 質問 & 要望

「本日ご説明された内容は、マネジメント分析手法として傾聴に値するものであるが、自らが会長である当有為会は格好の分析対象であると思う。できるだけ早い機会に、当会のマネジメント分析に着手し、組織としての問題点、在るべき姿、方向性を明示して頂きたい」との要望があり、会長も「わかりました」と応諾された。

最後に、沼澤興譲館館長より締めくくりの挨拶があり、次の点に言及された。

- ・高橋自治会長様のお話に関連し、「①今後町内会行事には出来るだけ参加したい。②防災という観点から、避難所、備蓄などについて、その在り方等今後の検討課題としたい。」

- ・須貝会長の講演については、「学生には、内容的に難解だったかも知れないが、社会人になつて是非思い出してほしい。」とコメントされた。

(構成 今井浩之介)

# 支部だより

## 東京支部

### 平成二十三年度東京支部活動報告

東京支部の平成二十三年度の活動を報告致します。

### 二十三年五月十一日 監事による平成二十二年度監査

東京興譲館

### 二十三年四月二十三日 第一回理事会 東京興譲館

平成二十二年度事業・決算・監査報告、平成二十三年

度事業計画・予算承認

平成二十三年五月満期評議員、留任・辞任委員の報告

### 二十三年五月二十一日 平成二十三年定期総会併せて歓

迎会 スクワール麹町

総会議案の審議・承認

総会後、恒例の新寄宿舎生（四名）・新奨学生（五名）

の歓迎会開催

### 二十三年六月二十一日 第二回理事会 東京興譲館

園遊会準備委員会の設置、委員長：菅野憲幸理事

平成二十五年五月満期評議員候補者と選任

二十三年十月二十九日 平成二十三年度園遊会 小石川

遊楽園 湧徳亭 出席者九十名

### 二十三年十一月二十五日 第三回理事会 東京興譲館

平成二十四年 新年会・予餞会の準備委員会の設置、

委員長：菅野憲幸理事

### 二十三年十一月四日 第四回理事会 東京興譲館

平成二十四年 新年会・予餞会の計画

### 平成二十三年新年会・予餞会の計画

平成二十四年 新年会及び卒業学生の予餞会

スクワール麹町

### 平成二十三年一月二十八日 新年会及び卒業学生の予餞会

スクワール麹町

会員の皆様と新年を寿ぎ、卒業の寄宿舎生（五名）と  
奨学生（四名）へ上杉邦憲名誉会長、下條会長と大関  
寄宿舎OB会長から餞別を頂いた。

### 平成二十四年度 東京支部の課題

#### ① 支部会員加入促進活動

会員の高齢化による退会が増えている。若い方の入  
会を勧める。

② 恒例行事の実行委員にも新しい方に参加してもら

い世代断層を防止する。

東京支部会員数

支部会員数（平成二十四年三月末現在）  
個人会員 三五二名（義決確保有者数）

贊助會員 六團體

訃報員 ご生前のご協力に感謝申し上げ、  
ご冥福をお祈り致します。

原青高木鈴小  
木橋村木幡  
弘芳有利常  
一朗郎恒一夫  
一樣様樣樣樣  
(二十四年三月)  
(二十四年三月)



## 上杉名誉会長と新舎生

## 米沢支部

平成二十四年度の現在までの米沢支部活動状況を報告します。

○四月二十四日 教育・産業功労者等検討会議 併せて

賞状文原案作成の分担依頼をした。

○五月一日 支部運営会議

○五月十一日

米沢支部監査

○五月十五日

米沢支務局長歓迎会

### 【第一回理事会】

○五月二十一日 午後一時から米沢市役所庁議室において開催した。

内容は、平成二十三年度米沢支部事業報告及び決算

報告を承認し、平成二十四年度事業計画及び予算案を

決定した。又、この理事会において教育産業功労賞表

彰の検討結果を報告し了承を得た。本部表彰該当者については会長に報告し、決定を受けることになる。なお、本年度は産業功労賞は該当がなく教育功労賞のみ

となつた

会員増強については賛助会員の数を増やすべきとの意見があり、組織の公益法人化とにらみ併せて検討することになった

今年度は我妻榮記念館が開館して二十周年にあたるので、本部事業として記念事業を計画している旨の報告と若干の役員変更が了承された。

○五月二十三日

我妻榮記念館開館二十周年事業に伴い、事業助成金として贈呈される莊内銀行ふるさと創造基金の贈呈に式出席

○五月二十六日

東京、仙台両興讓館寮の広報周知打合せ

セ

○六月四日

総務部・組織部合同会議を開催し、支部総会・本部総会の分担と進行打合せ

### 【総会】

○六月九日(土) 午後三時 ホテルサンルート米沢

会員四十名出席の中、安部三十郎支部長挨拶の後、議事に入る。二十三年度支部庶務報告及び決算が承認され、二十四年度事業計画案及び予算案が審議され、

原案通り議決した。

庶務報告の中で、  
支部会員数の状況が  
説明された。

評議員の補充では大  
澤実氏を選出した。

また、公益法人化の  
状況説明を本部平山  
副会長より説明を受けた。



### ○河合未帆（南陽市立宮内中学校三年）

第三十一回全国中学生人権作文コンテスト法務省人権  
擁護局長賞

### ○赤湯中ソフトボーグル部（南陽市立赤湯中学校）

平成二十三年度山形県中学校総合体育大会優勝  
第三十八回東北中学校女子ソフトボーグル大会準優勝  
第三十三回全国中学校ソフトボーグル大会ベスト十六

### ○小林千紗（高畠町立第二中学校三年）

第三十六回ごはん・お米とわたし作文图画コンクール  
作文三部文部科学大臣賞

中学生作文の部で第一席

### ○川西中女子ホッケー部（川西町立川西中学校）

第二十回東北中学生ホッケー選手権大会第二位

第十二回東北中学生ホッケー新人大会優勝  
山形県ホッケー選手権大会一般女子の部第三位

### ○柳夢叶（川西町立川西中学校三年）

第四十二回世界児童画展 文部科学大臣奨励賞  
生最高位

### ○齋藤有沙（南陽市立宮内中学校三年）

第五十九回東北六県中学校英語暗唱・高等学校英語弁  
論大会中学校の部第一位

### 〔特別顕彰〕

○米野美沙季（米沢市立第一中学校三年）  
山形県ジュニア弓道選手権 優勝（中学二年時）  
全国中学生弓道大会女子個人の部 第八位

○築川朗大（米沢市立南原中学校三年）

第三十三回全国少年少女駅道優勝大会中学男子個人法  
形競技の部 優勝

○佐藤 和（南陽市立宮内小学校六年）

第二十七回山形県小学生陸上競技大会女子八十Mハ  
ードル 優勝

第二十七回全国小学生陸上競技交流大会女子八十M  
ハードル 第四位

○高畠小四百Mリレーチーム（高畠町立高畠小学校）

第二十七回山形県小学生陸上競技大会男子四百Mリ  
レー 優勝

○竹田 空良（高畠町立糠野目小学校五年）

第二十七回山形県小学生陸上競技大会五年男子百M  
優勝

○昆 千裕（川西町立犬川小学校六年）

山形県読書感想画 最優秀賞  
第二十三回読書感想画中央コンクール 奨励賞

以上それぞれ表彰した後、安部三十郎支部長のあいさ  
つ、受賞者のあいさつと続き全員で記念撮影をして表彰  
式を終了した。

#### 【懇親会】

受賞者を交えて懇親会に移り、本会の理事、評議員、  
監事、教育委員、一般会員約三十五名で和やかな懇親会  
となつた。



○六月十四日 本部総会案内状発送作業

○六月三十日 有為会本部総会 ホテルサンルート米沢

○七月十七日 支部運営会議 秋の会員研修交流会や支  
部だよりについて協議

○七月二十三日 支部だより編集会議

○八月十八日 支部だよりの発送作業

#### 今後の行事予定

○九月上旬 総務部・組織部合同会議開催。役員会、交

流研修会の運営について協議予定

○九月二十二日 午後三時 ホテルサンルート米沢

・米沢支部理事評議員合同会議

今年度の事業内容や各部の構成などを改めて説  
明。又、理事・評議員の改選により選任された新任  
者の紹介。

○九月二十一日 支部交流研修会（講演会）午後三時  
三十分

今年度の講師は山形大学大学院理工学研究科教授  
で山形大学有機エレクトロニクス研究センターの大  
場好弘先生を招き、今話題の有機エレクトロニクス

についてのお話と地域の産業界の状況などもお聞き  
した。

【会員交流会（大いも煮会） 午後四時三十分から】

なお、今年度は「我妻榮記念館」の開館二十周年にあ  
たり、記念事業推進のための各種会合等も予定されてい  
るほか 東京・仙台両興譲館の舎生募集のためのプロ  
ジェクトチームも活動しており、本部と連携しながら例  
年ない活発な活動を展開しています。

（常務理事 鈴木幸一 記）



平山英三副会長の公益法人化説明

## 仙台支部

昨年三月十一日の大震災から一年半が経ち、仙台の中心街はすっかり以前の姿にもどつたかに見えます。しかし、代表的な商店街である東一番丁には、アーケードの屋根よりも高い部分がいまだにシートで覆われたビルも見られ、震災の傷あとがすっかりなくなつたわけではありません。

支部の活動は大震災のあおりを受けました。支部だよりの発行が、編集担当者の多忙や消耗で中断し、二十四年度に入つてやつと再開となりました。今後継続的な発行を目指します。

毎年の繰り返しになりますが、仙台支部の当面する最大の課題は仙台興譲館の寮生減少問題です。東京興譲館も同じ問題を抱えていますが仙台の方がより深刻です。今春あらたに入寮したのは一名のみで、寮生数は定員十八名のところ十名にとどまっています。寮生数の減少は、寮生の生活に影響します。寮費は自分たちの食費や光熱費と寮母さんの給与を寮生全員で負担する費用なので、寮生数の減少は寮生一人当たりの寮費の増加につながります。

ます。来春の新規入寮者が今年のようであれば、寮生は五・六名まで減少する可能性が高くなり、寮生が負担できる限度を越えてしまいます。

そうなつた場合、支部にも本部にも寮生を支える財務的な余裕は小さく、寮の閉鎖の可能性も出てきます。すみやかに寮生の増加を図り、寮の存続を確実にすることは、仙台支部のみならず、意欲ある置賜の若者の勉学を支援する有為会の喫緊の課題です。

幸い、今春有為会の理事会内に寮生減少対策を立案・実行する「寄宿舎寮生募集プロジェクト」ができ、リーダーの上村理事はじめ中心となる米沢支部のメンバーの精力的な働きにより、希望の持てる対策が立案・実行されていることは有り難いことです。

対策のなかでも、支部がとりわけ期待しているのは、高校の保護者対象の進学説明会における、東京寮と仙台寮についての保護者への直接説明です。既に三校で実施されました。しかし、良い結果につながつて欲しいと願っています。支部でも、保護者への直接宣伝の重要性は認識していましたが、保護者に伝える有効な方法については、これというよいアイディアが浮かびませんでした。支部内のローカルな議論にとどめず、広く有為会全体の知恵

を集めることの大切さを痛感しました。

保護者説明会の機会を最大限に生かそうと、支部では仙台寮OB、寮生会の協力を得てA4版一枚の「仙台興讓館案内」を急速作成し、保護者に配布しました。説明会での短時間の説明を補足する目的です。今後はこの「案内」をバージョンアップした「支部だより—寮特集号」を作成し、秋には関係するところに送付することを考えています。

以下に二十三年九月以降二十四年八月までの支部の活動を記します。



芋煮会 (23年10月8日)

里の食材でつくった芋煮はことのほかおいしく感じられました。

今回は米沢支部から高橋勉副支部長、手塚修理事、鈴木幸一理事の三名が仙台興讓館の視察を兼ねて参加されました。仙台寮の寮生減少が問題になつていてことは前述のとおりですが、仙台寮の居住環境については、寮生の供給元である置賜地区の方々に知られていません。今回の視察の結果を「米沢支部だより」に報告いただいていますが、大変よい評価をいただけたことを喜んでおります。こうした情報がまず会員に伝わり、そこから外部に伝えられていくことを期待しています。

### ○二十四年一月二十一日

仙台支部・仙台興讓館新年会 仙台興讓館  
支部会員七名が参加

### ○二十四年三月十七日

仙台興讓館入寮面接 仙台興讓館  
応募者一名を面接。

### ○二十四年四月二十一日

二十四年度第一回理事会 仙台興讓館  
六月の支部総会議案を審議

晴天のもと、清流の川原で食べる郷の川原で食べる郷

## ○二十四年六月九日

第二回理事会 仙台ビジネスホテル

総会に先立ち、仙台興譲館運営と二十五年度会員募集方針について審議。引き続き総会に入る。

平成二十四年度支部総会

鈴木信之本部財務担当理事から公益法人化経過報告と新定款・会費について説明があり、これを了承。二十三年度決算並びに事業報告、二十四年度予算案、事業計画、を審議承認。役員改選では栗田一巳氏の理事退任、御供政敏仙台興譲館長の退任と滝口政彦氏の館長就任を承認、仙台興譲館の現況報告と二十二年度会員募集方針を審議。引き続き講演会に入る。

### 支部講演会

講師 滝口政彦氏（仙台興譲館長、宮城植物の会副

会長、米沢興譲館高校昭和四十卒、東北大理学

部生物学科卒）

演題 私の植物行脚「宮城県のカシ類の分布・絶滅

危惧植物・置賜のナチュラリスト」

遺伝子中心ではなく、山野を歩き、丸ごとの植物を扱う植物学の魅力を感じる講演でした。

引き続いての懇親会で総会関連行事は幕を閉じた。

## ○二十四年八月五日

第三回理事会 仙台興譲館

寮生減少対策、次年度の支部財政、次年度の事務局引き継ぎと仙台興譲館への所在地移転、会員未納者の除籍等を審議。

納涼会 仙台興譲館屋上

夕刻より七夕前夜祭の広瀬川花火を観賞する会を御供理事の発案で初めて開催。会員・寮生合わせて十名がビルと参加できなかつた会員からの頂き物のお酒を飲みながら、夜空にひろがる花火を堪能した。仙台寮の屋上は、雑踏とは無縁の花火観賞の特等席で、参加者からは大好評でした。



納涼会（24年8月5日）

## 京都支部

平成二十四年度支部総会は六月十七日京都御所西側の京都平安ホテルで開催されました。参加者は来賓含め十八名。総会に先立ち参加者全員で謙信鷹山両公遙拝および誓いの詞の斎唱をしました。

その後本部から駆けつけていただいた鈴木信之理事による「有為会が社団法人から公益法人に移行することの必要理由と会費アップを含む結果予測」についての説明が繰々ありました。

このことにより納得はしていませんが一定レベルの理解は得られたようです。

恒例の講演は、元読売新聞編集委員・TVコメンテーター・現関西外大教授 加藤譲氏が「昨今の話題」を講演され、鋭く豊かな感性は皆を魅了いたしました。(氏のご父君は米沢出身)。

また、京都山形県人会の松本顯龍氏の洒脱なお話と交わす杯で懇親会は盛り上がりました。

氏は全国女子駅伝のふるさと選手に対する慰労や有為会活動を支援するなど面倒見のよい方です。



H24 有為会京都支部総会、懇親会〔於いて京都平安ホテル・H24.6.17〕

今年のボナンザは佐藤恒夫氏の出題、ユニークで楽しい問題にみんな詰付いた脳味噌に磨きをかけてだした珍回答、米沢から取り寄せた景品とお土産で大満足でした。今年は参加者が多くはなかつたですが先輩たちと交歓する新人三人の出席や小半日時にわたり「ザワ弁」が飛び交い楽しく過ごす支部会員の姿に有為会の「きずなの強さ」と「明日の光」を感じました。

高橋雅雄 記



京都山形県人会 芋煮会（於いて嵐山松尾・H23.10.16）

## 北海道支部

北海道支部の平成二十三年度総会は、例年のように勤労感謝の日の昨年十一月二十三日、札幌の都心にある入浴施設「ジャスマック・プラザ」で開催しました。会員十二人が出席して、午後早くから天然温泉にゆっくりとつかり総会に臨みました。

主な議題は支部役員の改選案。支部長を務めていた安部が、大峠前支部長からバトンを受け継いでちょうど十一年を数えたのと、有為会が公益法人化して新たな時代に移行しようという節目に当たって、支部の運営も若い人たちの知恵と行動力で進めてもらう意図で、提案は全会一致で承認されました。

新たに選任された役員は、支部長が前の副支部長の田村邦夫さん、副支部長に佐藤俊一さんと上野和子さんの二人。理事、評議員も補充・補強しました。事務局長はこれまで通りに田村さんの会社に置いていただきことになりました。ただ、支部財政は極めて厳しく、通信費さえ事欠く状況に陥っており、どう対応策を取るか苦慮して



温泉でくつろぎ語り合った支部総会

います。

総会後は懇親会に移り楽しく談笑、スナックでの二次会ではそれぞれ自慢ののどを披露しました。

一方、昨年九月の最終日曜日には、恒例の芋煮会を体験農場などがある「サッポロさとらんど」の炊事広場で開催しました。芋煮会は米沢工業高校OBの鶴城工親会北海道支部との共催に加えてもらつて催し、米沢・置賜出身者の集いの場になつていて、有為会支部から十人余りが参加しました。

工親会のメンバーを中心にブルーシートや机、鍋などの資材を運び込んで設営。総出で故郷から取り寄せた里芋二十キロの皮をむき、牛肉、コンニャク、ネギなどの食材の下ごしらえを進め、手際よく煮込みの開始。ほどなく寸胴鍋四つから食欲をそそる香りが立ち上ります。テーブルには米沢の地酒、ナス漬けなど懐かしい味もそろっています。

雨に降られた前年とはうつて変わつて快晴に恵まれ、緑に囲まれた広場にさわやかな秋風が吹き渡ります。会員たちは、何杯もお代わりして芋煮を中心行くまで味わい、酒を酌み交わして久しぶりに会つた仲間と談笑して過ごしました。

安部 英夫 記



秋晴れの下で芋煮会。故郷の味を腹いっぱい味わう

# 興讓館だより

## 東京興讓館

相田拓樹

まだ残暑の厳しい節電の夏が続きますが、有為会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。私達寮生につきましては、先日寮の各部屋にクーラーが設置され、節電を心がけながらも涼しく毎日を過ごしています。これは有為会会員の皆様のご理解とご厚意のおかけであり、寮生一同を代表して感謝の意を述べさせていただきま

さて、今年度の東京興讓館の寮生は一七名と、残念ながら満室とは程遠い状況ではあります。しかし、新しく入った寮生たちもすぐに寮の空気に打ち解けあい、満室の頃と変わらない、むしろそれ以上かもしれない活気に満ちあふれています。

昨年の東日本大震災はとても悲しく、そして人間の無力さを思い知らされる世界的な事件でしたが、同時に人と

人との「絆」の重要性を私達に再認識させるきっかけともなりました。寮生も置賜地方出身者が大半とはいえ、それぞれ生まれ育つた環境は少しずつ違います。そのため考え方の違いから衝突してしまう事もあります。しかし、ただ衝突するのではなく、相手と自分の異なる部分を認めたうえで、相手と自分の同じところを見つけ出していく。こうした作業が「絆」を生み出していくのだと思います。寮とはもちろん学生に生活の場を提供する場ですが、個人個人がぶつかり合い認め合い、「絆」を創つていくための場でもあると私は思っています。

残念なことに、空室が増えたことや電気料金の値上げ等の様々な原因が重なり、寮の会計が赤字になるという問題が発生してしまいました。

しかし、寮母の三浦さんの協力のもと、会計の山下君以下寮生が一丸となって、電気消費量の増える夏季に限り消費を一五〇〇円値上げする、一人ひとりが節電节水を心がけるなど、小さな所からコツコツと、この問題の解決に取り組んでいます。

決して簡単に解決する問題ではありませんが、寮生としてこの問題に立ち向かう事は、今後社会で生きていく上で大きな糧となる事だと思います。また、有為会建立

の礎となつた景勝公や兼続公、鷹山公そして茂憲公の精神を学ぶ機会でもあると思つています。

最後になりましたが、私達の家である東京興譲館を運営・支援してくださつてゐる有為会の皆様に、改めて感謝の意を表したいと思います。そして、私達寮生の成長や社会への旅立ちを見守つてくださるようお願い申しあげます。

最後に寮生の紹介をします。

### ○四年生

- |       |                          |
|-------|--------------------------|
| 山田 伸  | 〔法政大学工学部〕<br>(米沢興譲館高校)   |
| 相田 拓樹 | 〔明治大学文学部〕<br>(九里学園高校)    |
| 佐藤 拓弥 | 〔高千穂大学商学部〕<br>(米沢商業高校)   |
| 玉橋 一馬 | 〔東京理科大学理学部〕<br>(米沢興譲館高校) |
| 元木 康長 | 〔法政大学法学部〕<br>(長井高校)      |

### ○三年生

- |       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 高橋 心  | 〔電気通信大学情報理工学部〕<br>(米沢興譲館高校) |
| 畠樺 史博 | 〔日本大学文理学部〕<br>(基督教独立学園高校)   |
| 山下 智昭 | 〔中央大学商学部〕<br>(米沢興譲館高校)      |

### ○二年生

- |       |                            |
|-------|----------------------------|
| 鈴木 亮  | 〔東京農業大学短期大学〕<br>(南陽高校)     |
| 松㟢 祐樹 | 〔早稲田大学創造理工学部〕<br>(米沢興譲館高校) |
| 本田健太郎 | 〔東京農業大学国際食料情報学部〕<br>(高畠高校) |
| 宮坂 圭  | 〔中央大学商学部〕<br>(米沢興譲館高校)     |
| 小形 悠介 | 〔東洋大学経済学部〕<br>(米沢興譲館高校)    |

### ○一年生

- |       |                     |
|-------|---------------------|
| 元木 康長 | 〔法政大学法学部〕<br>(長井高校) |
|-------|---------------------|

安部 雅俊〔中央大学法学部〕  
伊藤 幸太〔米沢興譲館高校〕  
江藤 修人〔東京農業大学地球環境科学部〕  
(米沢興譲館高校)  
奥村 駿〔東京農業大学国際食糧情報学部〕  
(基督教独立学園高校)  
〔早稲田大学先進理工学部〕  
(米沢興譲館高校)



舍生懇談会

## 仙台興譲館

遠藤季理

今年の夏は各地で暑さに豪雨にと悩まされる年でした。仙台でも気温が三〇度を超える日が連日続き、八月を過ぎても暑さが和らぐ気配が見えず、例年以上に厳しい夏となりました。

さて、仙台興譲館では今年度、春に新入寮生一名、九月に中途入寮生一名を迎え、総勢十一名で生活しております。今年は春の時点で大学院生一名のみで、学部一年生の入寮者が一人もいないという、ここ数年では見られないほどの危機的状況でスタートを切りました。

寮生の減少については以前から危惧されており、最近は寮生が定員に満たない状態が続いているが、このままの状況では寮の維持ができなくなるという危機に直面し、寮生も積極的に活動をしなければいけないだろうということになりました。

まず、OB会の方との話し合いの場を設けていただき、なぜ入寮者が減っているのか、どうやって改善していくか、などを話し合いました。入寮者の減少には、やはり

環境の変化が大きくかかわっているように思います。寮での生活というと、他人との共同生活ですから、個人の自由が制限されるものです。個人の自由やプライバシーの尊重が重視されるに伴い、それを窮屈に感じるひとが増加していることが、寮生活が選ばれにくくなっている一つの原因です。また、寮に入らなければ学校に通えないと経済的に逼迫した家庭が減少していることも原因でしょう。しかし、原因はそれだけではなく、寮の知名度の低さも大きな要因であると考えています。これは以前から指摘されていたことです。高校生やその保護者の間で寮の存在はあまり知られていないようです。実際に、現在の寮生の多くが、学校での情報よりも地元のネットワークや保護者同士のつながりによって入寮してきています。

このような要因をうけて、まずは寮の存在を知つてもらうことが大切であり、そのための活動をしなければならない、ということになりました。有為会の皆様には六月に、甲仙台支部長や寮OBの方々による、地元高校の保護者会での説明会を実現していただき、保護者の方に直接に寮を伝えていただきました。ありがとうございました。寮生会では、有為会だけでなく寮生からも積極的に

情報を発信していかなければならぬと考え、ホームページの立ち上げやポスターの配布などの活動に取り組みました。

我々寮生が伝えなければならないのは、寮での生活には共同生活の不自由を上回る良さがある、ということだと思います。現寮生がそう思うように、同郷の仲間や先輩と共に過ごし、同じ釜の飯を食べ、互いに意見を語り合うことで生まれる絆や、互いに切磋琢磨できる環境はかけがえのない貴重なもので、共同生活でうまれる責任感や協調性は将来の人生で役立つものとなるはずです。過去の先輩方が卒業されてからもそのように語ってくださることが、その証拠だと思います。また、共同生活ならではの安心感があることも寮生活の良さだと思います。

学校から帰ってきたときに食事があり、寮母さんや他の寮生が迎えてくれることで、我々は学生生活を安心して送ることができます。

このような寮生活の良さを発信することで、一人でも多くの方に寮に関心を持つていただければと思います。

最後になりましたが、我々がこのような素晴らしい環境で生活することができるのには、甲仙台支部長、滝口仙台興譲館館長、御供前館長をはじめとする米沢有為会の

皆様や、寮母の小野寺さんのおかげです。とりわけ寮母の小野寺さんには、毎日の食事のみならず、寮生の一人一人の健康を気遣っていただき、心から感謝しております。皆様への感謝の気持ちを胸に、今後とも一生懸命頑張っていきたいと思います。

### ○専門学校

塩田 元 [東京IT会計専門学校仙台校会計学科会

計士コース]

(山形大学人文学部人間文化学科  
(山形東高校)

### ○大学院生

島森 拓土 [東北大学大学院理学研究科]

(米沢興譲館高校)

渡部 泰裕 [東北大学大学院経済学研究科]

(新潟大学経済学部経済学科)

(米沢興譲館高校)

寒河江祐也 [東北大学大学院経済学研究科]

(東北学院大学経済学部経済学科)

(山形市立商業高校)

## ○大学四年生

島貫 洋平 [東北大文学部人文社会学科]

(長井高校)

安部 玄樹 [東北大法学部法学科]

佐藤 丈洋 [米沢興譲館高校]

原田 学思 [東北大医学部保健学科放射線技術科学  
専攻]

(長井高校)

遠藤 季理 [東北大経済学部]

## ○大学三年生

(米沢興譲館高校)

太田 嵩人 [東北工業大学工学部知能エレクトロニク  
ス学科]

(米沢中央高校)

## ○大学二年生

黒田 啓太 [東北大法学部法学科]

(米沢東高校)



今年度の新入寮生歓迎会

# 我妻榮記念館だより

我妻榮記念館は、民法学者我妻榮先生の生家です。先生は明治三十年鉄砲屋町（現在の中央三丁目）に五人兄弟の長男として生まれ、（姉が二人、妹が二人）十七歳で第一高等学校に入学するまでこの家で過ごされました。

この建物は明治初期に建てられたもので、米沢においてはごく一般的な木造一部二階建で、現在では大変貴重な建物になっています。

大正六年に米沢で大火があり、榮先生の父上の又次郎さん（高等学校の英語の先生）の教え子達が消火活動にかけつけて類焼をまぬがれましたが、我妻家は市内の他の地区へ引越され、大正七年に大友家が買い受けて昭和六十三年まで七十年間住み、県外に転居されました。

そのあと市内の建設業者の手に渡り老朽建築物であることから解体の運命になりましたが、取り壊しになる寸

前に我妻榮先生の生家という事がわかり、維持保存の機運が高まり、平成元年米沢有為会創設百周年という節日に際し、我妻榮旧居宅取得が了承されました。

そして、記念館として開館する整備を行い、遺族からの寄贈品を展示し、平成四年六月十九日に「我妻榮記念館」として開館し現在に至っています。

来館された方々は、榮先生の業績に想いをはせ、生家に触れられ感激されています。

初代館長 松野良寅（平成四年六月～十五年五月）  
二代館長 今田久夫（平成十四年六月～二十年五月）  
三代館長 伊藤和夫（平成二十年六月～二十一年五月）  
四代館長 上村勘二（平成二十一年六月～現在）

## ○平成二十三年度の運営報告

### ・年間開館日

毎週金曜日・日曜日は午後一時～四時、月曜日は午前十時～午後四時まで開館。

年末年始休館で一四七日開館、他に臨時開館一日。

### ・入館者数

二三二名。

### ・記念館の利用

米沢有為会役員会・各部会など一四三名、鉄砲屋町町内会・鷹山と先人を顕彰する会・火種塾などの団体利用二二四名。

●補修整備

雪固い、ウコギ垣根刈り込み、植栽、消毒、剪定、建物補修（雨樋・トイレ・外壁塗喰）、土蔵白蟻消毒、建物西側外壁張替、建物外壁塗装。

●備品購入

エアコン、スノーダンプ。

●印刷・出版

我妻榮記念館だより第十六号。

●その他

興譲館高校（自頼奨学財団）の生徒・父兄二十二名の方々に、記念館内外の清掃奉仕をしていただき、終了後、館長の講義がありました。

●悲報

記念館運営に多大な御尽力をいただきました二代館長今田久夫氏（平成二十三年九月）・初代館長松野良寅氏（平成二十四年三月）が死去されました。御冥福をお祈り申し上げます。

す。

●建物の補修整備

●各種資料の整備

●各種資料の保存の検討

●利用拡大、広報PRの検討

●記念館だよりの出版（年一回）

●運営委員会の開催（年二回）

●その他必要な事項

●運営事業予算額 二百二十二万円（負担金二百万円、雑収入、繰越金）

●記念館の運営体制

以下の役職で管理運営を行っています。

△二十四年～二十五年度

名譽館長 我妻 堯

顧問 小関 薫

館長 上村 勘二

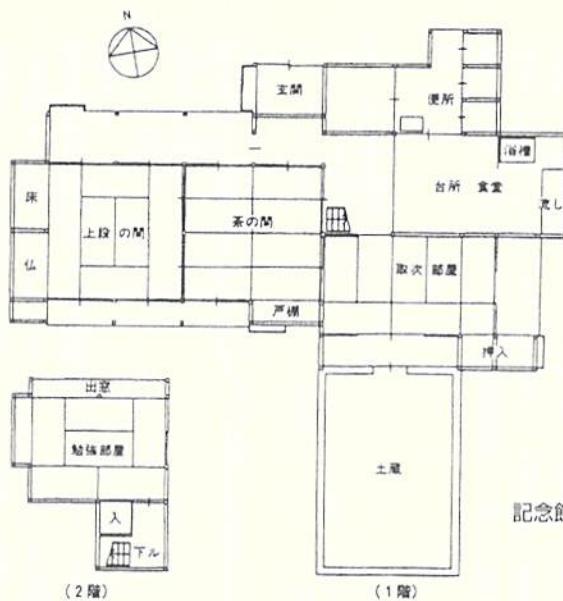
事務局長 鈴木 幸一

運営委員 遠藤 拓 安部 敏 五十嵐京子

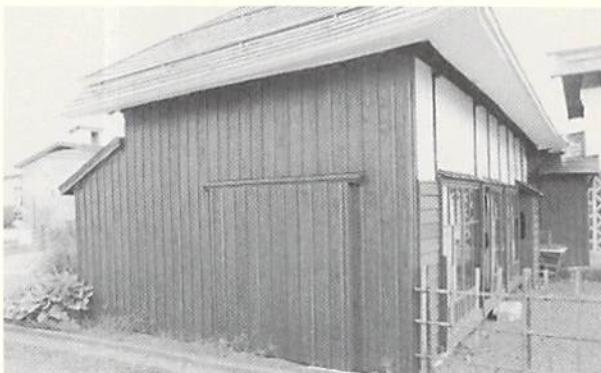
管理人 小林 高橋 節子 本多 和彦

○平成二十四年度の運営計画

記念館開館二十周年（平成四年開館）の年にあたりま



建物西側の外壁  
建物の風情を出すため  
トタン張りから杉板に  
張替



快適に見学ができる様  
資料室(土蔵)に  
エアコンの設置

## ○開館までの経緯

我妻榮記念館は、民法学者我妻榮先生の生家を記念館としたものです。先生は明治三十年米沢市鉄砲屋町（現在の中央三丁目）に生れ、十七歳で旧制第一高等学校に入学されるまで過されました。明治期に建てられた木造一部二階建の貴重な建物です。

大正六年の米沢大火には、父上の又次郎先生（自雷様）の教え子達（米沢中学校生徒）の消防活動で類焼を免れました。我家が市内他所に引越しされ、大友家が買い受けた昭和六十三年まで七十年間住み、県外に転居されました。その後、市内の建築業者に渡りました。

老朽建設物で解体の予定でしたが、我妻榮先生の生家であることが分かり、維持保存の機運が高まり、平成元年米沢有為会創立百周年の節目に、我妻榮旧宅取得が了承されました。

建物等の整備と遺族からの寄贈品を整理展示し、平成四年六月一九日に開館しました。

## ○我妻榮記念館略史

平成元年九月、我妻榮生家を米沢有為会で有為会創立百年記念事業として購入決定し、十月から四千万円を目指に基金づくりを行う。

平成4年6月19日 記念館開館

名譽館長 我妻 勇氏、初代館長 松野良寅氏  
初代管理人 神田倉一

・開館日は毎週火、木、金曜日

・開館記念式典 6月21日 置賜総合文化センター

・記念講演、我妻勇名譽館長「米沢と我妻榮」

平成5年9月5日 火種塾講話会

（鷹山公と先人顕彰会）始まる（奇数月の第一日曜日）。

平成7年6月 自頬炎学生親子で清掃奉仕開始

平成9年 我妻榮生誕百周年記念事業

・記念館の整備充実

・『我妻榮－人と時代』刊行

記念講演会 10月25日

置賜総合文化センター1

講師・我妻 勇・唄 孝一・遠藤 浩・松野良寅  
特別展 10月24日～29日 市民ギャラリードリー

平成12年3月 「我妻榮記念館だより」 刊刊

平成14年6月 開館十周年記念行事

・記念講演 6月30日 伝国の杜

講師 松野良寅(前館長)

・我妻先生を偲ぶ集い(上杉城史苑)

二代館長 今田久夫氏

平成15年4月 二代管理人 北村清彦氏

・開館日は毎週土、日、月曜日

平成17年6月 三代管理人 梅津幸保氏

・開館日は毎週月、金、日曜日

平成19年7月 我妻榮記念館標示塔設置

平成20年4月 三代館長 伊藤和夫氏、四代管理人小

林秀一氏・開館日は毎週月、金、日曜日

平成21年4月 四代館長 上村勘二氏

平成23年 東日本大震災により外壁・トイレ等が被害

を受け改修工事

平成24年 開館二十周年記念事業

・記念講演会 6月30日 伝国の杜

・懇親会

講師 我妻堯名譽館長 「息子から見た我妻榮」

### 入館者

平成4年 312名  
平成5年 560名  
平成6年 635名  
平成7年 543名  
平成9年 791名  
平成11年 492名  
平成12年 543名  
平成14年 172名  
平成15年 333名  
平成16年 423名  
平成17年 465名  
平成18年 434名  
平成19年 393名  
平成20年 425名  
平成21年 440名  
平成22年 360名  
平成23年 32名  
※平成8・10・12・13年の入館者は不明

### 施設利用者

367名  
315名  
414名  
463名  
425名  
353名  
393名  
434名  
465名  
360名  
32名  
13年の施設利用者は資料なし。

# ○ 我妻榮先生略年譜

明治30(一九〇七年)	0歳	4月1日	米沢市鉄砲屋町(現 我妻榮記念館)で父又次郎、 母つるの長男として生まれ る。	昭和20(一九四五)年	48歳	東京帝大法学部学部長
明治36(一九〇三年)	6歳	4月	興讓小学校入学	昭和21(一九四六年)	49歳	貴族院議員、臨時法調査会・ 司法法制審議会・家事審判制度 調査委員会各委員
明治42(一九〇九年)	12歳	4月	米沢中学校入学	昭和23(一九四八年)	51歳	日本私法学会理事長
大正3(一九一四年)	17歳	3月	米沢中学校卒業	昭和31(一九五六年)	59歳	7月 法務省特別顧問
大正6(一九一七年)	20歳	9月	第一高等学校一部丙種首 席合格	昭和32(一九五七年)	60歳	3月 東京帝大定年退官、同大 学名譽教授
大正8(一九一九年)	22歳	7月	東京帝大法学部入学	昭和39(一九六四年)	67歳	文化勳章、米沢市名誉市民
大正9(一九二〇年)	23歳	1月	高等文官試験行政科合格	昭和41(一九六三年)	69歳	母校に私財を寄贈し「財團法人 自頼奨学財團」を設立
大正11(一九二二年)	25歳	7月	東京帝大法學部法律学科 独逸法兼修卒業	昭和45(一九七〇年)	73歳	母校興讓小学校に「まがき文庫」 会総会に出席
大正12(一九二三年)	26歳	6月	文部省留学生として民法 研究のため欧米留学	昭和48(一九七三年)	76歳	9月 興讓館創立記念式典・我 妻先生胸像除幕式・同窓 会総会に出席
大正14(一九二五年)	28歳	12月8日	帰国	10月21日	死	急性胆のう炎のため 歎一等旭日大綬章 用
昭和元(一九二六年)	29歳	鈴木縁と結婚	左足首の関節炎を患いギブス着			
昭和5(一九三〇年)	33歳					

# 置賜市町だより

米沢市

ありません。  
まちの真ん中の図書館・市民ギャラリーをシンボルとして、文化のまち、教育のまちとしての空気をもう一度取り戻し、市民みんなが芸術・文化を楽しみ、読書する喜びを感じ、人生を充実したものに出来る深みのあるまちを目指します。

**新文化複合施設（図書館・市民ギャラリー）が平成26年度に完成します**

去る八月二十八日に開催された臨時議会におきまして、新文化複合施設（図書館・市民ギャラリー）の建設地が「まちの広場」に決定しました。平成二十七年三月完成、同年六月オープンを予定しております。

まちの中心に何があるかでそのまちの性格が決まると言われておりますが、米沢市は中心部に図書館を建設することにより、教育文化のまちであることを強く表現いたします。

古くは米沢藩の学問所であった禪林文庫に始まり、藩校興譲館・米沢高等工業学校（現山形大学工学部）、米沢女子短期大学というように、米沢は人が育つ土壤を豊かなものにする環境づくりの努力を地道に続けて、発展してきました。その中からたくさんの芸術家、学者、医者、建築家など幾多の人材を輩出したことは言うまでも

**鷹山の精神が受け継がれた米沢市民のまつり「なせばなる秋まつり」**

去る九月二十九日、三十日に松ヶ岬公園・伝国の杜周辺におきまして、「なせばなる秋まつり」が開催されました。

上杉鷹山の言葉「なせば成る」に表されるチャレンジ精神は時を越え、今なお米沢市民の心に深く息づいています。昔から根付く庶民の文化を改めて考えることで、もつとわたしたちの町「米沢」の良さを感じていただけよう、六つのイベントを柱としました。

メインイベントのひとつとして開催した「米沢時代行列」。この時代行列は、米沢の歴史を語る上で欠かすことのできない偉人やゆかりの人物の偉業を紹介すること

で、米沢というまちをもつと知っていたことがねらいです。また、市民の美風として受け継がれる「樺杭市」や伝統産業を紹介する「今に伝わる伝統市」、草木の生命すらも尊び感謝する心を養う「草木塔祭」など様々なイベントを通して、地域に根付く歴史や文化を紹介しました。



## 「米沢市営人工芝サッカーフィールド」が 11月4日オープンします

十一月四日に待望のナイター照明設備付き人工芝サッカー場が米沢総合公園の北側にオープンします。

オープニングを飾るのは大学の強豪である流通経済大サッカー部と地元のFCバラフレンチ米沢との招待試合です。

この夏、四年に一度のスポーツの祭典であるオリンピックがロンドンで開催され、全世界に感動が伝えられました。日本は史上最高のメダル数を獲得し、中でもサッカーは「なでしこジャパン」が銀メダルを獲得、男子もベスト4進出と躍進しました。本市においても、サッカーハンディによる競技人口の増加により、芝のサッカーフィールドのニーズが高まり、それを受け東北地方では福島市に次いで人工芝サッカーフィールドを整備を進めておりました。名称は「米沢市営人工芝サッカーフィールド」となり、二面の人工芝を有しています。今後は東北単位の大規模な大会の開催や合宿の誘致を行い、サッカーを通じた他市町村との交流の場として寄与できると考えています。

また、交流人口の増加による経済効果と共に次代を担う子ども達への教育的な効果も期待されます。

さらに、米沢総合公園にサッカー場が整備されること

により、スポーツ振興の拠点性はさらに高められること

から、米沢総合公園を

スポーツの

拠点として

市民がより

スポーツに

親しみ、来

訪者に気持

ちよく汗を

流していた

だける環境

づくりを目

指していくき

たいと考え

ています。



完成間近の人工芝サッカー場

## オフィス・アルカディアへの 山形大学関連施設の進出

平成二十五年度初めのオープンを目指して「山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター」の建設工事が米沢オフィス・アルカディア地内において、現在進められています。立地場所は本市が用地を無償貸与したもので、近くには「蓄電デバイス研究開発センター」の整備も進められており、こちらは平成二十五年九月からの実証運用開始を目指しています。

米沢市内の企業及び山形大学工学部では、世界初となる白色有機ELの開発、有機ELディスプレーの量産成功、世界にさきがけて有機EL照明パネルの量産販売を開始するなど、本市は有機エレクトロニクス分野において世界の最先端に位置しています。

山形大学では、これらのセンターを拠点として、有機EL、有機太陽電池、有機トランジスタ、蓄電デバイスの四領域を中心に共通の課題認識を持った企業と共同で、新たな価値を創造し、柔軟に新しいモデルの構築へ挑戦しようとしています。

产学官の協働や多様な産業分野の連携の基幹となるセ

ンターが整備されることによつて、新たな有機EL製品や有機EL関連産業の新分野が創出され、地元企業の有機エレクトロニクス分野へのさらなる参入や関連産業の集積が進むことで、雇用の拡大につながることが期待されています。

## 米沢市市勢要覧2012

市勢要覧は各自治体が主に視察など市外の人向けに市の概要を示すパンフレットとして制作しているものですが、このたび米沢市ではこの要覧を全面的に新しくしました。タイトルの tanto (たんと) は米沢の言葉で「たくさん」という意味ですが、携帯サイトと連動し、動画で米沢弁が学べる米沢語講座を設けたり、市民のお楽しみをたくさん盛り込んだ新しいタイプの要覧です。

情報手段や情報量が格段に進歩している中、改めて紙面で発行する市勢要覧のあり方を検討した結果、内容を充実し、手に取って読んで楽しめる「雑誌風」の市勢要覧を製作することとしました。

取上げるテーマを絞ることで「米沢人の顔」が見え、本市に興味を持ち、「米沢に行つてみたい」と思つて頂

けるような内容としております。

また、従来無料で配布していたものを、販売することで経費を節約するとともに、この市勢要覧が「米沢雑誌」であるということを、より強く印象付けております。頒布価格は一冊二〇〇円となつておりますので、どうぞこの機会にご購読くださいとともに、米沢にお越しください。

問合せ、お申込み

米沢市役所秘書広報課 ☎ 0238-121-5111  
(定額小為替を送付いただければ通信販売もできます。)



# 長井市

## 災害時応援協定

昨年の東日本大震災以降、安全安心な暮らしを守るために、防災計画の見直しや自主防災組織の育成など、これまで以上に取り組みを強化していかなければなりません。

### 長井市・白石市・奥州市災害時 相互応援協定締結

長井市と岩手県奥州市、宮城県白石市が大規模災害時の相互応援協定を結びました。大規模災害が発生した際、支援物資の提供や職員の派遣、避難者受け入れなどを相互に実施します。三市長が東北ダム事業促進連絡協議会の正副会長を務めていたことがきっかけとなり、東日本大震災の経験から、身近な地域での相互応援が必要という認識で一致しました。いずれも短時間で



長井市・白石市・奥州市 災害時相互応援協定締結



長井市・飯山市  
災害時相互応援協定  
締結

到着できる場所にあり、確実な支援が期待できるとして  
協定締結に至りました。

### 長野県飯山市と災害時相互応援協定締結

長野県飯山市と大規模災害時の相互応援協定を結びました。飯山市とは、フットバス関連事業を契機とした交流を行つており、現在も建設・観光部門とともに、まちづくりNPOセンターなどとの幅広い相互交流が展開されています。

協定は、被災地からの要請を受けて応援を実施しますが、連絡が困難な場合も想定し「自主的判断により応援」ができるとし、食糧・飲料水・医薬品などを応援物資として定めたほか、両市間の積極的な交流推進なども規定しました。これを機に両市の絆が強まり、市民同士の交流が深まることが期待されます。

### ドイツ まちづくり研修を実施しました

七月十日から十七日にかけて、まちづくり研修市民訪問団（団長・内谷重治市長、十七名）は、海外姉妹都市であるドイツのバート・ゼッキンゲン市などを訪問し、



「シェーナウ城」前での記念撮影（ゼッキンゲン市と長井友人協会の皆さんと共に）

まちづくり研修を実施してきました。（以下ゼ市）

### 交流の経過

長井市とゼ市の交流は、昭和五十二年の第四回日独スボーツ少年団交流事業の際に、九名の交流団が長井市内にホームステイしたことになります。翌年には長井スキーコンクールがスイスでスキー研修を実施し、ゼ市を訪問。その後八十三年にゼ市で、八十四年に長井市で、姉妹都市の盟約が締結されました。それ以来、市民を中心とした相互訪問が続けられています。

ゼ市はドイツ南端に位置し、ライン川をはさんでスイスと国境を接した、人口約一万七千人のまちです。ドイツ語で「温泉・鉱泉」を意味する「バート」の名を持つゼ市は、その名のとおりドイツでは有数の温泉保養地になつております。年間約一三〇万人もの観光客が訪れます。

### ゼ市での研修

今回の訪問では、歓迎セレモニー、旧市街地視察、交流パーティ、まちづくり意見交換会、視察研修など様々なプログラムを用意していただきました。「シエーナウ城」で行われた歓迎セレモニーは、ゼ市とホームステイ



ゼッキンゲン市の旧市街地を見学

を受け入れてくださる長井友人協会の方々の同席のもと開かれました。ゼ市のアレクサンダー・ゲール市長からは、まちづくり研修を通じて、ゼ市について大いに知識を深めてもらいたい旨の歓迎の言葉をいただきました。

ゼ市滞在二日目に実施されたまちづくりに関する意見交換会では、ゼ市の都市計画や観光振興、教育制度、再生可能エネルギーなどについて、各担当者からデータや写真などを交え、丁寧に説明していただきました。訪問団からも活発に質問が出され、充実した意見交換会となりました。その後、ライン川の流れを利用した大規模な「ラインフエルデン水力発電所」も見学させていただき、ドイツの再生可能エネルギーへの熱心な取り組みを実際に目で見て学ぶことができました。

### まちづくり人材育成

また、今回初の試みとして、今後の長井のまちづくりを担う若い人材を育てようと市民から公募し、高石仁光さん、江口達也さん、今野由賀さんの三名がまちづくり研修員として参加しました。研修を終えて、高石さんは「人や世代が変わっても受け継がれるような、まちづく



ゼッキンゲン市でのまちづくり意見交換会

りを目指したい。」江口さんは「市民レベルで共通意識を持つたうえで、まちづくりを行うことが必要。」今野さんは「長井で需要と供給の流れを農業以外にも取り入れることができないか考えたい。」と、今後の抱負を語っています。

### 盟約三十周年に向けて

ゼ市滞在中、内谷市長はグール市長に書簡を手渡し、姉妹都市締結三十周年の記念すべき来年に、ゼ市長を長井市に招待し記念事業を行うことを提案しました。招待に対して、グール市長は市民とともに長井市を訪問することを約束しました。

今回の訪問を通じ、姉妹都市締結三十周年という節日の年を前に、長井市とゼ市の友好の絆がさらに深まり、次世代の交流にも繋がる研修となりました。



内谷長井市長からグール市長に書簡を手渡す

## 南陽市

### 市民一人ひとりの力で「学び 創り 伝え 育む」 南陽の教育の推進にあたつて

置賜盆地の北端に位置する北条郷は、伝説と祈りに包まれた地域であり、それらの伝説や祈りは人々に口伝の形で伝えられています。礼節に関わることや歴史、文化、知識や技能・技術等の新しい情報などを併せて伝えられました。つまり、家庭における教育は幼児期のみを意味するのではなく、規律や特性、基礎的教養等、多くの教育的側面を持つた確かな「学び」「伝え」「育む」ことが日常的に行われておりました。

江戸時代、明治時代とその時代の変遷とともに、人々の生き方・在り方を支え、文化・産業の発展につながったのが、実学を旨とする教育振興でした。

昭和に入り、郷土の偉人である結城豊太郎翁の「風塾」に、実学性の高い学問と先人の生き方を学ぶために多くの青年が集いました。「ふるさとの大切さ」「人づくりの有用さ」を大切にする結城先生の精神は多くの人々の努力により、現在も脈々と受け継がれています。

「私たちは、一人ひとりの力で、主体的に、学び、創り、伝え、育むことで、確かな未来を築いていきます」を誓いの言葉に、南陽市では今年度から、この先十年間の将来を見据えた第五次南陽市教育振興計画がスタートしました。

本市で

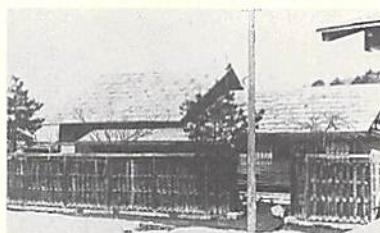
の教育振興は、市

民総ぐる  
みの教育  
を推進し

ていく過  
程で、子  
どもたち  
のふるさ



風也塾と風也塾で学ぶ青年達



会的自立を促す生徒指導や起業家教育を取り入れた進路指導等に大きな特徴が見られます。また、社会教育においても、地域活動の活性化や地域後継者育成の視点から、より充実が図られてきました。このように、少年、青年、壮年、シニアとともに同じ市民としてまちづくり

を共有し、「学び」「創り」「伝え」「育む」という教育機能を「社会融合」と捉えています。

さらに、市民一人ひとりが自発的に主体的にスポーツや学習に取り組む教育風土づくりをめざして、これらの生涯学習体系の中で培われた資質や能力を、市民自らの生活や仕事に生かしながら、人生をより豊かなものにしていくとともに、一人ひとりの市民が学び得た力を地域社会づくりに有用していくところに、本教育振興計画の大きな特徴があります。

この市民総ぐるみで教育に立ち向かう体制は、地域の人材育成や地域振興を具現化する有効な手法と考えています。とりわけ、小中学生は多くの市民の方々との学びの中で、地域の一員、社会の一員としての自覚が高まり、地域力、自治力もつき、近未来における本市を担う自立した人材への成長を遂げるものと考えております。



小学校における国際化の授業から

ます。

具体的な施策として、特に、考える力と社会性を養う「幼保小中一貫教育」、国際社会を主体的に生きぬく日本人としての自覚を養い、国際的な視野で考える人材を育成する「国際化教育」と読解力や理数教科の応用力を高め、多様な問題解決に新たな発想を生み出す人材を育成する「理数教育」の充実を図る「ジユニアサイエンティストプログラム事業」や次代を担う国際人育成に向けた「青少年インターナショナルセミナー」等を開催し、人づくりを促進しています。

今後、十年間の中、教育のまちづくりを中心とした諸施策が互いに共鳴し、市民一人ひとりの力が結びつき、教育振興の流れとなることを願い、新しい時代にふさわしい教育に取り組んでまいります。

## 第100回を迎える「全国一の歴史と技と文化を誇る南陽の菊まつり」

南陽の菊まつりは、大正元年、宮内の料亭において本彫りの人形を菊の花で装飾したことから始まり、今年は記念すべき百回目となります。この間、戦時中は一時規模を縮小しましたが、地域の方々の支えにより百年間の長

きにわたり継続することができ、全国一の歴史と技と文化を誇るまつりとなりました。

昨年度からは、南陽市民体育館及びドリームランドとの相乗効果を図るため、会場を「南陽市中央花公園」に変更し、このことにより、会場内が歩きやすくなつたと高齢者の方から好評を得ております。

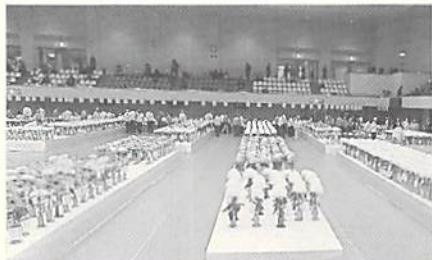
今年度の菊まつりは、十月三十日から十一月十一日までの二十三日間で開催され、菊人形は六場面構成を予定しております。入場料は、昨年と同額の大人三百円、小人二百円、幼児無料とし、多くの皆様のご入場をお待ちしております。また、今年度は、土・日曜日に地元産品の物産展も併せて開催いたしますので、こちらにもぜひ足をお運びくださいます。

今年は、第百回記念大会に併せて、一般社団法人全日本菊花連盟が主催する菊切花等の第四十八回全国



場所を変更して開催された南陽の菊まつり

大会を誘致し、十一月九日から一日までの三日間の日程で開催されます。全国大会には、北海道から宮崎県まで全国各地の菊花栽培の愛好者がこの日のために一年間精魂込めて栽培した菊の大輪二千本以上が、会場内に所狭しと展示され、その様子はまさに圧巻であり、菊の栽培技術の高さを改めて感じることができます。この機会にぜひご来場いただき、菊の香り、大輪の優雅さを会場内で感じてください。皆様のお越しをお待ちしております。



菊花の気品と優雅さを競う全国菊花大会

### 香り高い文化のまちを目指して

本市では、市民会館の建て替えが長年の課題となつております。そこで、市の総合計画に位置付け、地域文化の発展、豊かな社会の実現を目指し、今年度から新文化会館の整備に向けた本格的な検討作業を始めました。

現在の市民会館は、昭和四十二年に二町一村（宮内町・赤湯町・和郷村）が合併し、将来の発展を期して、昭和四十三年に建設された集会施設であります。以来、これまで本市の芸術文化の振興、まちづくりの拠点としての役割を果たしてきました。

しかし、建設から四十年以上が経過しており、駐車場が少なくバリアフリーが未整備であることや、電気、音響、空調設備の老朽化、さらには建物の耐震性など、多くの課題が浮上しております。特に、耐震性に関しては、昨年三月十一日に発生した東日本大震災により、屋外階段の沈下や壁面からのコンクリート片のはく落等の被害があり、応急工事は施したもの、早急に建て替え等を検討する必要があります。

文化会館は言うまでもなく、芸術、文化の振興に寄与するほか、まちづくりの推進等、市が持続発展する上でなくてはならないものであり、これまで市民会館が担つてきた機能を既存の施設で代替することは到底不可能であります。地域の芸術や文化を発信し、地域の方々が集い、活動する中から新たな交流が生まれる。さらには、人が育ち、文化が育ち、次の世代に伝えていく。そういう視点が、これから時代に求められており、少子高齢化社会を迎える

なかコンパクトで持続可能な社会の実現を目指すとともに、文化会館は、現在及び将来に渡って私達やその子ども達が、これからの南陽市の芸術、文化、そして我がまちを育むための拠点となる施設でなければなりません。それに市民参加のまちづくりがキーワードとなってきます。

本市では、今年七月に新文化会館基本構想等市民懇話会を設置し、市民と行政が協働で新しい文化会館の構想づくりに取り組んでいます。公募によって参加された市民の方々や、各種団体の代表として参加された方が、有識者とともに月二回集まり、市民にとって真に必要な施設の姿はどういったものか、建物、機能、運営など様々な角度からの検討を重ねております。

南陽市民三万四千人の力を結集して、後世に誇れる施設とするべく新文化会館の整備を進めるとともに、市民一人ひとりがまちづくりの一員として成長できる施設を目指してまいります。



新文化会館基本構想等市民懇話会

## 高畠町

### 「クラシックカーレビュー IN 高畠2012」

(2012年10月21日(日) 午前9時開会)

実り豊かで野山の彩りが最も美しい季節を待つて、「クラシックカーレビュー IN 高畠」が高畠町中心部の昭和縁むすび通り・まほろば通り・序舎通り各商店街にかけて開催されます。

この東北最大規模のクラシックカーショーは、平成十一年度「高畠町交通安全大会」の一環として開催され、二年に一度の偶数年開催となつております。本年で八回目を迎えます。

一九八七年までに生産されたオリジナルの国産車・外國産車(三・四輪車)が全国から集い、展示やパレードの他、山形県警察音楽隊による交通安全啓発パレードやクラシックカー人気投票コンテストが行われます。二〇〇台余りのクラシックカーが一同に会する様は圧巻です。以前ご自身やご家族が乗っていた車、若い頃にあこがれた車など、車好きな方だけに限らず、皆様の胸にさまざまな想いが溢れることでしょう。

クラシックカーを通じて、町民の交通安全意識および公衆道徳の向上はもちろん、中心商店街の活性化をも目的とした事業として町内外に誇れるものです。

日本全国から自慢の愛車とともにご参加いただく多くのみなさまと、ご来場いただきます町内外の方々に「まほろばの里 たかはた」の秋の魅力を存分に楽しんでいただけるイベントとなつております。

### 「クラシックカーレビュー IN 高畠2012」に

関する問合せ先

高畠町商工会内

クラシックカーレビュー IN 高畠2012事務局

TEL: 0238(52)0576

FAX: 0238(52)0577

四季折々の自然や文化が楽しめる高畠町。

今年の秋は「ノスタルジックなつかはた」を感じてみませんか?

「クラシックカーレビュー in  
高畠 二〇一〇」の様子



## 川西町

### 「川西夏まつり」

平成24年8月5日（日）

川西町多目的運動場

### 川西夏まつり盛大に開催

今年、川西町では、平成十六年以来八年ぶりに川西夏祭りが開催されました。真夏の炎天下ではありましたが、会場には、町内外から約四千人の人々が集まり、盛大なまつりとなりました。

町内和太鼓三団体による合同演奏でスタートし、日が暮れるにつれてどんどん盛り上がりを見せていきました。今回のまつりは、町民がひとつになれるまつりを目指しただけではなく、「元気復興元年」として、被災地の復興支援の意味合いも込められていました。故井上ひさし先生のご縁で交流のある岩手県大槌町から、伝統芸能「虎舞」も参加し、まるで本物の虎が動いているような迫力ある舞は、まつりをより魅力的なものにしてくれ

よさこいや川西音頭などの踊り、また町内神社の獅子舞や小松豊年獅子踊など、数々のアトラクションの最後を締めくくったのが花火です。花火を購入された方のメッセージが読み上げられたあとに、夏の夜空に鮮やかに花火が打ちあがると、会場の視線は一斉に花火に向かう感動のひとときを過ごしました。



▶真夏の夜空に打ちあがった鮮やかな花火



▲交流がまつりをより魅力的なものに（岩手県大槌町）伝統芸能「虎舞」



▲小松豊年獅子踊の迫力ある火の輪くぐり

## 小国町

### 新しい小国小学校の建設に着手

#### 平成24年・25年の2カ年で建設

全国的に少子化が進むなか、本町においても児童生徒数が減少しています。特に、町中心部から離れた地域に位置する学校では、学校としての機能維持が困難になつてきています。こうした社会環境の変化に対応し、子どもたちの教育環境を確保していくため、小国町教育委員会では、おおむね平成二十五年度をめどとして、町内の小学校、中学校をそれぞれ一校に統合する方針を掲げ、平成十八年四月から町立小中学校の統合を段階的に実施してきました。

こうしたなかで、小学校統合の母体となる小国小学校は、老朽化が進み、全面改築が必要となつていてことから、平成二十一年度は、新しい小国小学校の建設候補地の選定や学校に望まれる基本的な機能などを盛り込んだ「小国小学校改築基本構想」を、平成二十二年度には、施設の配置計画や建物の構造などを示した「小国小学校



新しい小国小学校建設イメージ図

「改築基本計画」を策定し、建設に向けた取り組みを進めできました。

新しい小国小学校の建設地は、敷地の形状や広さ、これまで取り組んできた小中高一貫教育や社会教育の連携など多面的な視点で検討し、小国中学校の隣接地となりました。

新しい小国小学校の校舎建設は、平成二十四年度、平成二十五年度の二ヵ年を建設期間として進めています。

### 安全安心を確保した学校

昨年は、東日本大震災や台風等による豪雨灾害など、全国的に規模の大きい災害が発生し、災害への備え、災害対策の重要性を再認識することとなりました。子どもたちの安全・安心の確保を最重要課題として、校舎の設計を進めてきましたが、特に、豪雨災害への安全性を高めるため、建設予定地の地盤をかさ上げするなどの対応を行っています。

### 地域資源を活用した学校

校舎の主要構造は、安全性を高めるため、鉄筋コンクリート造としていますが、校舎内には、小国町内産の木材をふんだんに活用し、柔らかく温かみのある空間づくりを目指しています。

学校建設に使用する木材は、町内の大字小国小坂町、大字玉川地内の町有林（計約三ヘクタール）を活用し、平成二十三年十一月から伐採に着手し、丸太の体積で約一二〇〇立方メートルのスギ材を確保しています。

### 環境に配慮した学校

めているところです。

本町には豊富な森林資源があります。新小国小学校には、この森林資源から得られる間伐材などを熱源とする「木質バイオマスエネルギー」を活用した暖房設備等のシステムを導入し、これを、校舎の暖房や校舎周囲の融雪、厨房の給湯などに使用することとしています。

また、校舎で電力を生み出す仕組みとして、太陽光のエネルギーを電力に変える「太陽光パネル」を設置する予定です。冬季の積雪など、本町の気候を考慮した上で、十分な効果が得られるよう配置していくこととしています。

また、新小国小学校では、自校給食を実施しますが、同校に加え、隣接する小国中学校にも配食することとしています。このなかで、学校給食に使用する食材は、地産地消の観点から、地元農林水産物を十分に供給できるよう、山形おきたま農業協同組合や町内農業者、小国町地産地消推進協議会が連携して取り組むこととし、現在、準備を進めているところです。

#### 新小国小学校の周辺環境の再配置

校舎建設と併せて、児童の安全・安心な通学を確保するため、アクセス道路や児童公園の再配置など、文教地区としてエリア全体の機能の充実を図ることとしています。

町では、新小国小学校の建設に向けて、校舎の細部の設計や、学校周辺の環境整備など関連する事業を進め、目標としている平成二十六年度の開校を目指していきます。



建設に向けて工事が進む建設地周辺（右手は町民総合体育館）

# 白鷹町

平成25年4月スタートに向けて

さくらの保育園・子育て支援センター  
「にこぼーと」

鮎貝地内、四季の郷に建設中

保育ニーズの多様化や子育て家庭に対する支援の充実が課題となつております。柔軟かつ効率的な行政運営が求められている中で、平成二十二年十二月に「白鷹町の保育所民営化等の今後の方針について」を決定しました。

その後、平成二十三年一月から子育て支援拠点施設検討協議会を立ち上げ、子育て支援拠点施設の整備等について検討してきました。平成二十四年三月には施設の建設工事を発注し、平成二十五年四月の開設を目指して事業を推進しています。

その事業概要、各施設の運営概要などについてお知らせします。

## 1. 事業概要

(1) 整備する施設と施設整備・管理運営主体

整備する施設	施設整備の事業主体	施設管理運営の事業主体
さくらの保育園 「にこぼーと」	福祉協議会	白鷹町社会
白鷹町	白鷹町社会	福祉協議会

### (2) 整備する施設の概要

- ・ 土地面積 12600m<sup>2</sup>  
(保育園9943m<sup>2</sup>、支援センター等2657m<sup>2</sup>)
- ・ 主体構造 木造平屋
- ・ 延床面積 1790・00m<sup>2</sup>
- (保育園 1277・29m<sup>2</sup>)  
支援センター等 512・71m<sup>2</sup>
- ・ その他特徴点

太陽光発電・蓄電システム(発電10キロワット、蓄電15キロワット)の導入

オール電化による厨房設備、冷暖房

## 2. 各施設の運営概要（特徴点のみ）

### (1) さくらの保育園

保育施設の老朽化や就学前児童数の減少に対応して、こぐわ保育園とあゆかい保育園を統合し、新しい保育園として開園します。定員一五〇人で、「職業観」を目標に、次代（あした）にはばたく元気な子を目指す子どもの姿とし、心身ともに健康で、意欲・自主性・思いやりのある、豊かな感性を持つ子どもを育てていきます。具体的な保育内容については概ねこれまで同様ですが、開園時間について午前七時から午後七時までの十二時間保育とし、充実を図ります。保育料や通園バス運行などはこれまで通りです。

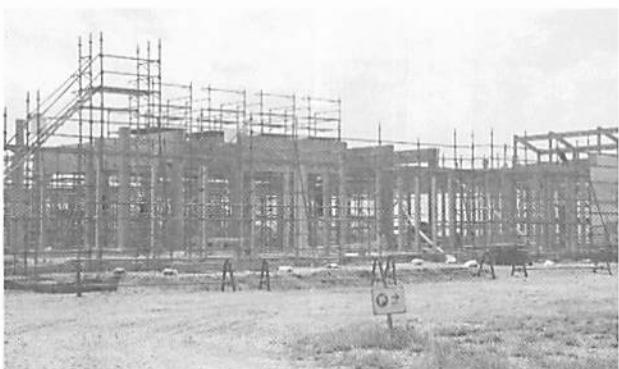
### (2) 子育て支援センター「にこぼーと」

#### ① 子育て支援センター（遊び広場など）

利便性の向上と地域全体で支え合う子育て支援の一層の充実を図るため、これまで健康福祉センターを中心に開催していた子育て支援センター事

#### ② 放課後児童クラブ

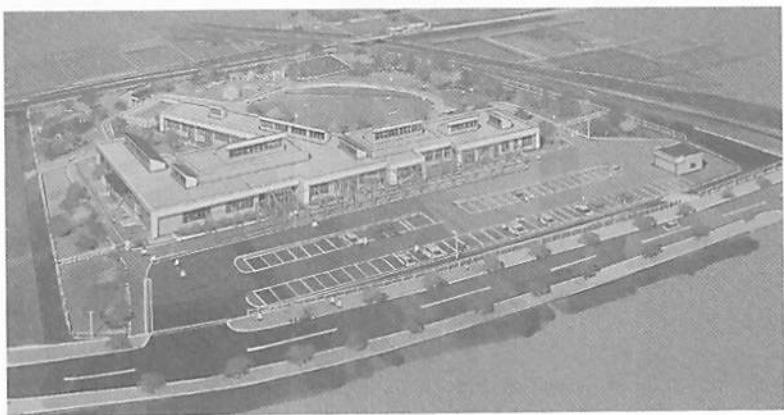
これまで鮎貝小学校の空き教室を利用し活動してきた鮎貝地区放課後児童クラブについて、保育園等との連携の中での連携の中で、利用児童が一層伸びやかに、充実した生活ができるよう本施設の中での事業を実施します。開設時間などの充実を図っていきます。



▲鮎貝地内四季の郷に建設中



▲4月17日に行われた起工式



▲完成予定図

## 飯 豊 町

### エネルギーの地産地消による環境と 地域経済の好循環の構築

#### ○エネルギーの安定確保と環境保全

エネルギー資源に乏しい日本では、オイルショック以降、エネルギーの安定確保のためにエネルギーの多種化及び国产化に取り組んできました。しかし、現在もエネルギー資源の九六%を輸入に頼っている状況です。輸入先との関係悪化や国際事情などにより輸入が途絶えた場合、国内経済や国民生活は、たちどころに停滞してしまいます。

また、近年はゲリラ豪雨、猛暑、豪雪など、異常気象といわれる現象が頻発しています。これらの要因は、人口増や経済活動による自然破壊、二酸化炭素の増加や人工熱の影響などと言われています。

エネルギーの安定確保や環境保全などの観点から、今は省エネ・省資源の取り組みが国内で徐々に浸透してきていますが、多少の無理が伴います。また、ひとたび

手にした便利で快適な生活を完全に放棄することは、一般には受け入れがたいものです。

そのため、現代にあつた省エネ・省資源の暮らし方を提案し、賛同いただく必要があります。また一方で、安全で安心な新エネルギーの創出・利用を図るとともに、国产エネルギーの割合を増やすことで、無理をせずに省エネ・省資源の暮らしを営むことが可能になります。

#### ○新エネルギービジョンとバイオマスマッシュ構想の策定

本町では、平成十三年度に、新エネルギーの利用可能性を調査・検討し「飯豊町地域新エネルギービジョン」を策定しました。新エネルギーの中でも町面積の八三%を占める森林を活用するため木質に着目しました。平成十五年度に木質燃料施設起業化調査、翌年度はファイバリティースタディ調査を行いました。両調査では、町内産木材を使用した木質ペレット生産施設の事業化可能性を詳細に調査しました。その後、平成十九年度に、町内に広く浅く分布するバイオマス（再生可能な生物由来の有機物質。例：木質、家畜排泄物、稻わら、エネルギー作物など）の活用による、環境負荷低減社会を目指し「バイオマスマッシュ構想」を策定しました。

木質ペレットは、燃焼により熱を発生するため冬季の暖房用熱源となります。その燃焼で放出された二酸化炭素は木の成長過程で再吸収されるとされ、地球温暖化を防止するクリーンエネルギーに位置づけられています。また森林資源の積極的な活用は、近年懸念されている森林の荒廃の歴止めと、林業再生、地域経済への波及効果が期待されています。

ビジョン・調査・構想に基づいて、行政・町民・事業者の協力により、公共施設をはじめ、家庭や事業所へのペレットストーブ導入支援を行いました。民間の園芸ハウスや第三セクターの宿泊施設には、熱使用量の多いペレットボイラの導入支援を行いました。

家庭でのエネルギー作物（ヒマワリ）の栽培・鑑賞、小学校二校へ新エネルギー機器を設置し子どもたちへの環境教育・学習の実施、庁舎内での環境ISO取得環境イベントなどを行いました。

上記のように、同時にハーブ事業とソフト事業が

車の両輪のように、歩調を合わせて回り、目標に向かって直進するがごとく、循環型社会への転換に向けた機運づくりと環境整備が短期間で整つたものと考えます。

そして平成二十一年度に、木質ペレットやおが粉を製

造販売する施設が完成しました。工場、設備及び重機などは町が整備し、運営は民間の中津川バイオマス株式会社です。本施設によりエネルギーの地産地消と地域資源を活用した雇用創造が実現しました。

### ○機器の開発及び最新機器の導入

#### ・飯豊型ペレットストーブ完成

この様な中、町、山形大学工学部、県内企業による产学官連携により「飯豊型ペレットストーブ」を開発しました。飯豊産ペレットを効率よく燃焼させる工夫のほか、温風が足元から吹き出すこと、着火スピードと安全性が大幅に改善していること、FF式で高気密住宅での使用にも向いていることが特徴です。その性能は、従来のペレットストーブを使用している方が驚くほど向上しています。町では飯豊型ペレットストーブの普及を図るため、既助成制度を見直し、助成額を引き上げました。

さらに、その排気と給気を利用した発電装置も同時に開発され、停電などの非常時には蓄えた電気で着火することも可能になります。

・ペレット焚冷温水機が役場庁舎で稼働中

今年三月には役場庁舎に、冬は暖房機、夏は冷房機として稼働する「ペレット焚冷温水機」を導入しました。夏の節電が取りざたされる今日にあって画期的な機器です。

導入した機器は、昨年十月から設置工事に着手し三月二十六日に完成しました。総事業費は六千二百七十九万円。鉄筋コンクリート平屋根の施設に二台を設置。木質ペレットを燃料に冷房と暖房の両機能を果たす空調システムで、官庁に導入されたのは県内で本町が初めてです。

夏冬とも、着火の際にプロパンガスを使用します。

また、冬の暖房の際にはその日の稼働初期には既存重油ボイラー一台を併用する必要があります。ある程度熱が確保されると重油ボイラーは自動停止し、木質ペレットを主体にして運用するため、重油への依存度を大幅に減らします。冷房については、特殊な液体と減圧容器内の水の気化作用により冷却しています。これまでの電気とフロンガスによる冷却システムを完全に撤去しました。電気使用量の大額な削減が可能となりました。さらに年間で約三十二トンの二酸化炭素( $\text{CO}_2$ )

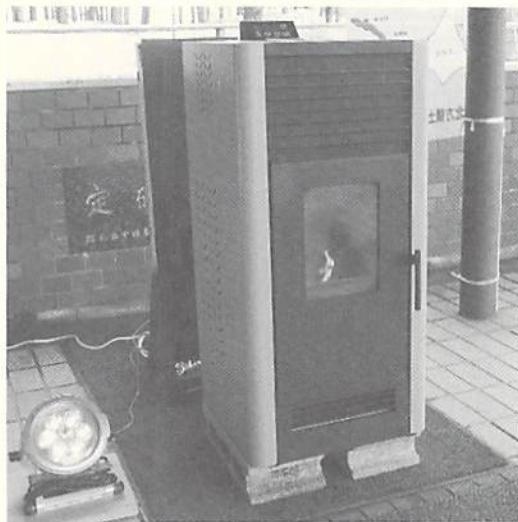
排出量の削減が見込まれ、地球温暖化防止にも大きく貢献します。町は今後も新エネルギー地産地消及び積極的利用に努め、自然と調和した環境と経済の循環型のまちづくりを目指します。



森林資源



▲木質ペレット



▲飯豊型ペレットストーブ。  
左下は発電装置による照明機点灯



▲冷暖房用に導入したペレット焚  
冷温水機が収められた建屋

# トピックス

①

## 国立国会図書館長誕生

このたび、本会理事の大滝則忠さんが、国立国会図書館々長に就任されました。郷土の誇りであり、人材育成を目標としている有為会の宝であります。ここに経歴とごあいさつを載せ、祝意を表します。

### 七年ぶりの職場復帰

国立国会図書館々長 大滝 則忠

このたび四月一日付で、思いもかけず、第十五代国立国会図書館長を拝命いたしました。

就任早々に、各部局から一連の業務の現況説明を新鮮に聴きました。七年前に退職して以来、OBとしての立場で、また図書館情報学の大学教員としての



仕事上の必要から、ずっと館の動向に関心を持ちながら過ごしていましたので、既知のことがらも多くありました

た。ホームページ等で日常的な発信に館が積極的に取り組んでいる恩恵に、国民のひとりとして自ら浴しています。

一方、未知のことがらも、多くありました。これは、これまで館が何か発信不足だったということではなく、現役が担っている業務内容と社会環境が日々刻々と変化しているという事情があるためと考えます。特に、現下の電子情報に関連する状況変化は、激流の直中があり、館と社会との接点がかつてなく広がっています。

現役として業務を担うということは、まさにこの激流に直面しつつ、冷静に判断しながら、館が進むべき方向に適切に舵を取り続けるということになります。いま、船長として、瀬標なき大海に船出ましたが、この航海には幸い意欲的に仕事に取り組む多くのクルーに恵まれています。その力を引き出し、組織としての総合力を發揮できることが肝心です。緊張の毎日ですが、再び図書館の職場に新たな持ち場を与えられて復帰することになつたという偶然を素直に受け入れて、力の限りを尽くしたいと思っています。

直面する課題としては、国全体として取り組む東日本大震災アーカイブの構築に中心的な役割を果たすこと、

また、国立国会図書館法改正による来年七月からの民間発信の無償のオンライン資料（インターネット等の送信手段により「出版」される電子情報で、図書または逐次刊行物に相当するもの）の制度収集を実施する準備に万全を図ること、さらに、これまで二二〇万冊に及ぶ所蔵資料デジタル化の成果をより利活用するために、このたびの著作権法改正によつて可能となつた公共図書館等へのデジタル化データ送信を来年一月から実施する準備などがあります。それぞれハードな対外折衝を通じて、はじめて成し遂げることができた懸案ばかりです。

皆様には、どうぞよろしくご指導ご支援いただくことをお願いいたします。

（「国立国会図書館O/B会会報」（平成二十四年九月刊）からの転載）

**【おおたき・のりただ】** 一九四四年生まれ。川西町玉庭出身。米沢興譲館高校を経て、東京教育大学文学部（法律政治学専攻）卒業。一九六八年国立国会図書館に入館し、総務部長、副館長を経て、二〇〇四年に在職三十六年余で退職。二〇〇六年から東京農業大学教授（図書館情報学）。国立国会図書館は東京本館（東京・永田町）、関西館（京都・精華町）、

国際子ども図書館（東京・上野公園）の三施設から成る。館長は、衆参両院の本会議における承認後、両院議長によつて任命される。

## トピックス

②

### 愛知大学元学長『本間喜一』の胸像寄贈



平成二十三年十一月二日、本間

喜一先生顕彰会会長を務める越智

専さんから愛知大学を通じて、「地

元に貢献する人材を育てるのが、

本間先生の願いであった。川西町

の方々にも郷土の偉人を見つめて

もらいたい」との思いから胸像と関係書類をいただきま

した。

胸像は現在玉庭地区交流センターに置かれています。に建立されています。またいただいた関係書類は町立図書館に保管されています。

なお、顕彰会で発行された本間先生の業績などを著した冊子が同センターにあります。

お求めの場合は、左記にご連絡ください。

玉庭地区交流センター

川西町大字玉庭六七〇八一五

TEL ○三二八一四八一二一三〇

### 【略歴】

本間喜一は明治二十四（一八九二）年、川西町玉庭に生まれる。十三才の時、叔父である本間則忠氏の養子となつて上京。

大正四（一九一五）年、東京帝国大学法科を卒業し、検事、判事などを務められた後弁護士となる。昭和十五（一九四〇）年、中国の上海にあつた「東亜同文書院大学」の教授となり、後学長となる。敗戦で同大学が閉校となり、昭和二十一年、教授や学生を受け入れるため愛知大学創設に奔走した。また、昭和二十一年、新憲法下で最高裁判所事務総長として活躍した。昭和二十五年から三十年まで第二代愛知大学長を務めた。二度目の学長は昭和三十四年から三十八年まで就任した。昭和四十年勲二等旭日重光章を受章。昭和六十二

（一九八七）年九十六歳で逝去。



胸像授与式

# トピックス

③

童謡「ないしょ話」が自作視聴覚「シンクールで優秀賞受賞

## ふるさとの童謡「ないしょ話」

南陽8ミリクラブ

加藤正人

平成十八年、文化庁が親子で長く歌い継いでほしい日本の童謡・唱歌や歌謡曲など一〇一曲を選定した。この中に「赤とんぼ」や「上を向いて歩こう」などとともに、「ないしょ話」が選ばれている。この「ないしょ話」を作詞した結城よしが、大正九年に東置賜郡宮内町（現在の南陽市宮内）に生まれたことはあまり知られていない。第二次世界大戦中の昭和十九年に二十四年間の生涯を閉じ、亡くなるまでに五千曲を超える童謡を作詞し、三十数曲がレコード化されている。

南陽8ミリクラブでは、結城よしひの生涯やないしょ

共

話に込められた願いを掘り起こそうと、ビデオによる自作視聴覚教材「ふるさとの童謡ないしょ話」を制作した。この作品がこの度の全国自作視聴覚教材コンクールで優秀賞を受賞した。

多くの人々にこの作品を観て、置賜の地に生まれ、日本のかず選の一「ないしょ話」を作詞した結城よしが多くの方々に知つていただきたい。

DVDは東京本部及び米沢支部で貸出する。



# トピックス

④

## YONAZ戦士 アズマンジャー誕生

YOZAN戦士アズマンジャーは、米沢の特産品である、味のABCをテーマにした山形県米沢市のご当地ヒーローです。コスチュームには、米沢織物織維協同組合連合会様よりご提供いただいた米沢織を使用しており、キャラクターの名称やセリフなどに、米沢弁をふんだんに盛り込みました。アズマンジャーのテーマソングにも方言を取り入れ、ヴォーカルはタレントのダニエル・カール氏、作曲は米沢にも縁のあるSoul & Beat Unit「天地人」の津軽三味線奏者黒澤博幸氏による協力いただきました。

アズマンジャーは米沢の産業や文化を幅広くPRするご当地ヒーローとして、これから多方面で活躍していくことを期待しております。

今後共、皆様に愛されるようなヒーローとして日々楽しい企画を展開して参りますので、お気軽にお声をかけていただき、熱い応援をくださいますよう、よろしくお願ひいたします。



ガオル一味



Vs



アズマンジャー公式ホームページ <http://azmanger.com>

プロデュース ジーエスデザイン株式会社

〒992-1123 米沢市万世町桑山4311番地 ☎0238-29-0100

## 江戸時代の草木塔17基文化財に指定

### 〈米沢市〉

草木供養塔あるいは草木塔と刻まれた石造物があり、江戸時代に建立されたものが全国で三十四基見つかっている。そのうちの三十二基が米沢藩内(置賜)にあることから、米沢が草木塔発祥の地といわれている。草木にも命があり、その命を絶つて私達は生かされているという供養の心と、自然の恵みに感謝する気持ちが込められた民間信仰として注目を浴びている。

置賜地方の分布を見てみると、米沢市が十七基、川西町が九基、飯豊町が五基、南陽市が一基と確認できる。年代的には米沢が一番早く安永九(一七八〇)年に入田沢塩地平に建てられたものである。川西町で一番早いのは寛政九(一七九七)年玉庭柴引に建てられたものである。次が南陽市で文政七(一八二四)年荻に建てられたもの、文政十三(一八三〇)年飯豊町小屋に建てられたものと続いている。

米沢市では平成九年にそれらを代表する五基を市指定文化財とした。平成に入つてから全国にこの草木塔建立が普及し、平成二十四年までに全国で二〇〇基を数えるほどになった。現在の建立の理由は主に、自然を大切にしようという精神と、環境保全の意味が込められている。今、日本文化や、置賜の民俗が見直されており、先人の知恵と工夫に個性を感じ見直されている。この時になり置賜の民俗文化を広く紹介することが地域にとって大きなメリットになる。置賜に育った精神文化を県、国の大宝としようと願っている。この機会に指定された草木塔を紹介する。なお置賜の江戸時代の草木塔で南陽市宮内字荻の草木塔が、昭和43年に指定されている。

(梅津幸保)

1. 米沢市入田沢字塩地平  
1780(安永9)年 112cm(平成24年指定)
2. 米沢市入田沢字大明神沢  
1780(安永9)年 110cm(平成24年指定)
3. 米沢市入田沢字白夫平  
1797(寛政9)年 85cm(平成9年指定)

4.	米沢市入田沢字上屋敷			11.	米沢市口田沢字山根	
1800(寛政12)年	86cm(平成9年指定)			1823(文政6)年	83cm(平成24年指定)	
5.	米沢市大字赤芝			12.	米沢市口田沢字下の町	
1801(享和元)年	115cm(平成24年指定)			1826(文政9)年	82cm(平成24年指定)	
6.	米沢市入田沢字戸長里			13.	米沢市万世町赤浜	
1807(文化4)年	85cm(平成24年指定)			1841(天保12)年	78cm(平成24年指定)	
7.	米沢市簗沢字糸畔			14.	米沢市万世町刈安	
1816(文化13)年	122cm(平成24年指定)			1845(弘化2)年	88cm(平成24年指定)	
8.	米沢市入田沢字大荒沢			15.	米沢市小野川町小町山	
1818(文政元)年	83cm(平成24年指定)			1845(弘化2)年	63cm(平成24年指定)	
9.	米沢市簗沢字大代原			16.	米沢市万世町梓山	
1823(文政6)年	106cm(平成9年指定)			1854(嘉永7)年	225cm(平成24年指定)	
10.	米沢市神原字唐原			17.	米沢市口田沢字上中原	
1823(文政6)年	77cm(平成24年指定)			1865(慶応元)年	170cm(平成9年指定)	

米沢市指定文化財となつた  
江戸時代の草木塔

〈米沢〉

2



1780(安永9)年 塙地平 112cm

1



1780(安永9)年 大明神沢 110cm

5



1801(享和元)年 赤芝 115cm

4



1800(寛政12)年 上屋敷 86cm

3



1797(寛政9)年 白布平 85cm

8



1818(文政元)年 大荒沢 83cm

7



1816(文化13)年 糸畔 122cm

6



1807(文化4)年 戸長里 85cm

 <p>11</p>	 <p>10</p>	 <p>9</p>
<p>1823(文政6)年 山根 83cm</p>	<p>1823(文政6)年 唐原 77cm</p>	<p>1823(文政6)年 大代原 106cm</p>
 <p>14</p>	 <p>13</p>	 <p>12</p>
<p>1845(弘化2)年 刈安 88cm</p>	<p>1841(天保12)年 赤浜 78cm</p>	<p>1826(文政9)年 下の町 82cm</p>
 <p>17</p>	 <p>16</p>	 <p>15</p>
<p>1865(慶応元)年 上中原 170cm</p>	<p>1854(嘉永7)年 梓山 225cm</p>	<p>1845(弘化2)年 小野川 63cm</p>

## 会員の広場

### 「漆の実」俳句会便り

主宰 鈴木 淳一

- 主宰 鈴木 淳一（師系・秋元不死男・楠木憲吉）
- 会長 下條 泰正（怡生）
- 事務局長 小山 泰（八州史）
- 会計幹事 加納 和子（和子）
- 企画幹事 片山 浩三（丹波）
- 池田 謙自（弁之助）
- 太田ひろみ（甘美）
- 会員

登坂佳永（かりん）・松坂康夫（六義）・浜田白鶯・浜田

吾愛（扇風）大関修敬（鷗牛）

※休会中・佐伯雅子（みやび）・畠山みつ子（みつ子）・

小山青嵐峰。以上十五名

平成十九年一月、句会「漆の実」から丸六年。昨年は全会員の作品集「漆の実選集」も発行された。そしていまは俳句誌「漆の実」を毎月発行するところまできた。俳句誌といつても、十四、五頁程度の手作りの冊子である。毎月、会員投稿の五句とその作品に対する淳一選評・添削。そして淳一作品七句で構成されている。会員のエッセーや私の作品への鑑賞文等徐々に充実して行ければと思つてゐる。

発行を一手に引き受けている小山八州史さんには毎月ご苦労をかけている。

ここで改めて今日現在の「漆の実」会員を紹介する。

俳誌「漆の実」

発行所 埼玉県草加市金明町一九九一四

小山 泰方 一〇四八一九三一一八二〇四)

なお句会は原則として、毎月第四土曜、東京芝浦の山形大学サテライトで正午から午後四時まで。会費五百円。初心者大歓迎。また休会中の方々は一日も早い復帰を。タイムイズマネー、切磋琢磨してこそ俳句上達の道がある。また句会でのコミュニケーションも人生の中が拡がるので。最近入会の浜田白鶯・扇風は高畠出身の童話作家濱田広介先生の次女と孫娘さん。孫娘の扇風さんは、現在東京芸大非常勤講師としてフラメンコを教えられて

# 会員の広場

いる。また発行責任者の小山八州史さんの子息青嵐峰さん（大阪在住）も加入された。俳句界の一結社に夫婦での参加はよくみかけるが、親子での参加はちょっとめずらしくほほえましいかぎりである。

ここで会員各自の最近の作品一つと私の選評と併せ記してみたい。（貢の関係でひとり一作品とした）

「漆の実」佳句抄 鈴木淳一選

◎鎌倉宮地下土牢に新樹光

下條 怡生

新樹光にもこのような新しい発見がある。鎌倉宮も祭神は大塔宮護良親王。社殿の背後に親王が幽閉されたという土牢（つちろう）がある。そんな歴史あるシチユエーションの中での新樹光。新樹光そのものが、歴史の中に浸っているようだ。五月の定例句会での席題は「新樹光」。

咄嗟にインスピレーションの冴えて素晴らしい一句が出来た。土牢の陰気な雰囲気と新樹光の瑞々しさの相関性が古都鎌倉を舞台にして出来上がった。

◎秩父路や石切場下に新樹光

加納 和子

石切場の題材は、俳人の大好きな處。切られた石の角度と重圧と光がよいのだろう。私も秩父路が好きで再三行っている。この一句も秩父の情景がよく見える。「秩父路や」の「や」の切れ字に秩父路の広さがでていて、石切場と新樹光とをよく結びつけていた。俳句特有の叙述法で成功している。

◎山墓と一椀残る雪解かな

小山八州史

この句は春彼岸の墓参りの情景でなく、山歩きの折にふと目にとまつたスナップだろう。

山の中腹どころの雪解どき、ふわっと山墓が現れ、よくみるとそこには一椀がぽつんと置いてあつた。廻りはまだ雪に被われているのに墓と白い陶器と湯呑み茶碗が、一瞬作者に強く残像として飛び込んできたのだろう。雪解けの季節のなかの即物俳句。対象を俳句的なまなざしでよく捉えている。

◎逃げ水の果ても逃げ水断酒の身

池田弁之助

「逃げ水」は蜃気楼の別名。春の草原で若葉の葉末に

水が流れているように見えるが、近づくと水は遠ざかってしまうもの。また川の水が地中に流れていってその行くところがわからないもの。季は春。

さて本論、「逃げ水の果ても逃げ水」の導入部から中七までのリズムもよいしフレーズが上手い。そして結句の「断酒の身」もキリリとおさまった。作者はいま酒断ちの身体、アルコールが逃げ水のようにあとからあとから追いかけてくる。実感が詠えひとにもよく伝わってくる。

#### ◎信州小布施雲沸く如く栗の花

松坂六義

「雲沸く如く」の比喩が上手い。栗に花を正面から捉えてゆるぎない。「信州小布施」がよく効いている

#### ◎ちぎれ雲南風にとばされ汽車ばつば

太田甘美

導入部「ちぎれ雲」がよい。そして結句の「汽車ばつば」と上手く結合した。また中七「雲南風にとばされ」が上五・下五にかわりあって一句を上手に構成した。句会二回目の作品としては出色の出来栄えとなつた。

#### ◎鬱とした教師の貌へ新樹光

片山丹波

現代教師の全貌が新樹光によつて再生された。「鬱とした教師の貌へ」の上五・中七のフレーズがいろいろの色合いを込めて抜群。そして結句の「新樹光」で甦つた。今日の教師の抱える問題点に希望をもたらす新樹光の季語が活き活きとしてこの句を一段高めている。一連のリズムのよさもこの句を引き立たせている。

#### ◎窓越しに逃げ水動く校丁日

登坂かりん

今日が校正の完了する日。今までの校正の疲労度、人間関係のやつかしさが「逃げ水動く」の中にかくされていて「窓越しの逃げ水」抽象的イメージと共にこの作品を薫りゆたかにしている。

#### ◎まず自立つ黒・ベージュ・白 冬用意 濱田 扇風

面白い作品だ。「冬用意」という季語のモチーフ既成概念でなく提出している点がよい。それと句全体に、リズムの跳躍感と切れがあつて、舌頭に転がしても心地よい。一気に詠ませる力を秘めている。街に出てすぐに心象的な映像の世界に入る。黒は定番のコート、ベージュ

はショール、白はマスクか。しかしあまり一句を解説めいて詮索しない方がよい。ふらつと街にでたらこの三原色がもう冬用意をしていたのだから。現代風のウイットに富んだ一句。

◎被災者の故郷に海市たちにけり

浜田 白鷺

海市、蜃氣樓の別名。山市もある。  
希望とペーススの入り混じった海市。一日も早く昔通りの町が戻つて欲しい。白鷺さんだけでなく日本中の皆さんのが、かいま見える一句。

◎胡桃の実ほじくる母の背中かな

大閑 蝶牛

私はどうしても母の日の句に弱い。戦時中の食料事情の悪い時、胡桃をカナヅチで割つてある音と母親の姿を想いだす。確かにこの一句とオーバーラップする。昏れかかつた縁側で母親が背中を丸めて胡桃をほじくつていた情景。くるみ餅ならば、なんばいいだろうなんてことを考えていた。それでも、夜食に、くるみのささげ和えでも喜んで食べた。いまは、食生活も充ち、昔の母の背中の郷愁のみが残像として残つてゐる。母親の背中とク

俳句には、やはり俳句を作るポイントがある。作者はよくそのポイントを知つてゐるようだ。京おんなの風情がよい。これからもそのポイントを深く深く掘り下げて欲しい。楽しみにしている。

近詠七句

鈴木 淳一

新茶ですカフェ主人の寄りでいう

トーストのふはふはとくる朝寝かな

母の日や納豆つよく搔き混ぜる

ウェーブ起つ神宮球場南風来る

バスガイド円陣くみし栗の花

クラゲを喰ふ我もまた無思想者

雨傘も日傘も集め銀座暮色

以上

ルミの結びつきがいやに脳裏から離れない一句。

◎ゴミ出しも日傘を差して京おんな

小山青嵐峰

川柳同好会「柳為会」

平成二十四年五月九日 東京文化会館 参加者

九名

席題『メモ』『忘れる』

軸吟

席題『メモ』

『忘れる』

軸吟

席題『メモ』

三行のメモ書き残し妻家出

軸吟

折角のメモが読めない乱れ文字  
引出の隅にメモ書き亡母の句

軸吟

取り過ぎたメモが整理の出来ぬ年  
忘れぬようメモしたことをもう忘れ

軸吟

メモ帳はまず最後まで使われず  
買い物のメモはお家でお留守番

軸吟

意味不明自分で書いた手帳に字

三四郎 温 遊子 かずま つつじ 美呆 郁

軸吟

席題『忘れる』

軸吟

故郷に忘れたままの恋ひとつ  
認知症介護するのも抜けのひと

軸吟

心裂く忘れもできぬ年暮れる  
借り忘れ貸しは忘れぬ都合よく

軸吟

ふれた手の温もり今も忘れない  
振ったあと忘れられなくなつたひと

軸吟

物忘れお互い様と許し合う

軸吟

故郷に忘れたままの恋ひとつ  
認知症介護するのも抜けのひと

三四郎 温 遊子 かずま つつじ 美呆 郁

誰だつて顔は分かるが名が出ない

郁

平成二十四年七月四日 東京文化会館 参加者

八名

席題『声』『思い出』

軸吟

突然の友の計報に絶句する

軸吟

総入れ歛ずうずう弁に輪をかけて  
やさしくて美しい声欲しいもの

軸吟

声かけて来そう雪割れ福寿草  
声の良い人ほど喉を痛めがち

軸吟

国民の声とどく頬色あせて

軸吟

ホーホケキヨ姿隠して春告げる

軸吟

お帰りの優しい声に身構える

軸吟

思い出

軸吟

思い出はセビア色した恋の影

軸吟

思い出を包んで廻る走馬灯

軸吟

集い来て過去の生きざま語り合い

軸吟

見合いしてこの娘と決めた喫茶店

軸吟

断捨離がさらに思い出膨らます

軸吟

冬の朝背中で聞いたさよなら

軸吟

あの人の思い出を抱きひとり酒

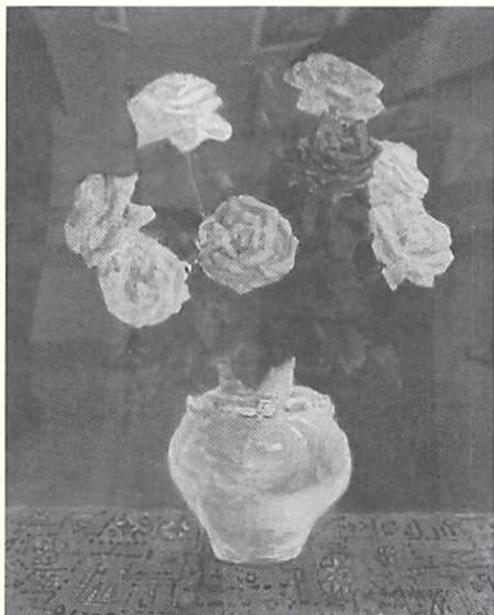
軸吟

思い出に生きる力を与えられ

三四郎 温 遊子 かずま つつじ 美呆 郁

第67回山形県総合美術展覧会出品作品

「ばら」 委嘱 高森務

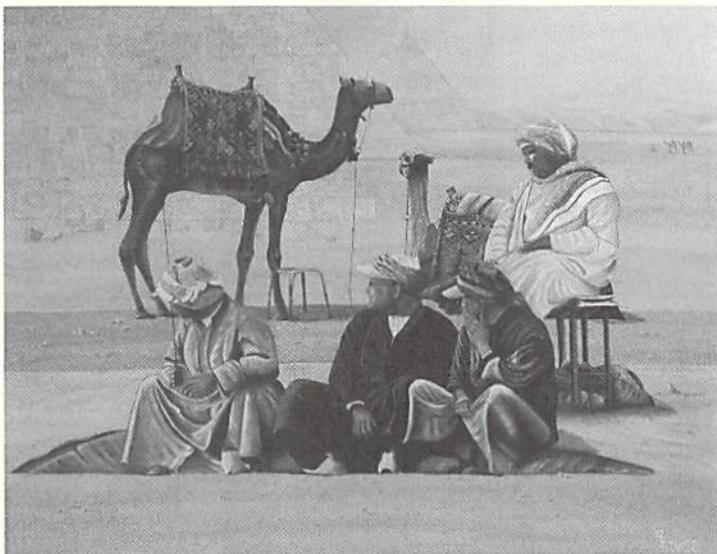


「混沌からの再生 No3」 委嘱 亀岡博



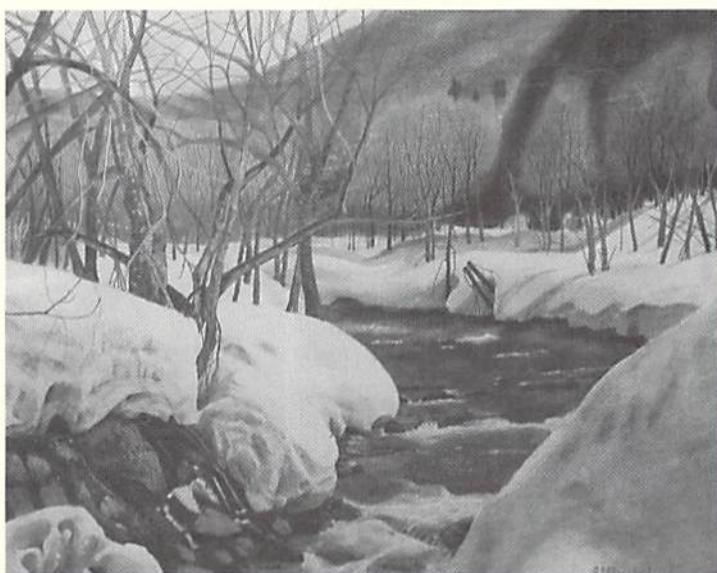
「客待ち」

高橋丈夫



「雪解けの頃」

齋藤秀一



法人團

# 米沢有為会役員名簿

平成二十四年九月現在

## 名譽会長

上杉邦憲

## 名譽会員

本間敏雄

下條泰生

(文化大學學長)

## 会長

(理事)須貝英雄

## 副会長

(理事)安山英三郎

## 理事

大滝原俊英

梅安石部

津原部

則幸俊

忠忠保

中手種高情木信文  
川塚村橋木幸  
絃信文  
一修次

手種高情木信文  
塚村橋木幸  
信文  
修次

貝沼甲上菅小佐  
沼野山藤野  
國勘榮  
二雄

## 監事

米御澤研  
沼供政敏  
澤宗楨  
研敏

## 評議員

(采澤)江井五十嵐京助  
(采澤)飯沼忠彦  
(采澤)安部洋司  
(采澤)金之丞

伊藤秀太郎  
西澤多和  
中條和  
藤菜良  
藤和彥  
一文

(東京)大石道夫  
(東京)片平善造  
(東京)加藤真琴  
(東京)金子孝治郎  
(東京)川合勝雄  
(東京)菊地隆雄  
(東京)佐伯雅子  
(東京)佐藤憲雄  
(北海道)佐藤好利  
(北海道)藤正明  
(京都)柴田利雄  
(仙台)谷瀬進彦

## 相談役

新中高高高曾鈴小九金金加大大遠藤  
 野條橋橋橋根木森森閑閑里子子子藤  
 昌幸俊伸脩力昌茂芳利雄常吉久太郎  
 生仁翁龍廣良二雄幸薰三雄修敬雄

## 理事役務分担

(新法人移行への体制)

## ○総務部

事務局長	同	同	同	組織担当	財務担当	副部長兼施設管理担当	部長平山英三	仁科盛修
中大川滝紘則一忠	菅野憲幸	石原俊一次	種村信泰	小山信毅	佐藤之穀			

(米澤塚)(仙台塚)(東京永)(仙台林)(東京平)(東京深)(同本郷)(同宮坂)(同坂)(同田石)(同房孝)(同和夫)(同和信)(同生男)(同幸浩)(同房孝)(同和夫)(同博子)(同一郎)(同伊藤井)(同瀬井)(同和浩)(同和浩)(同子介)(同今井)(同岩瀬)(同赤井)(同安井)(同伊井)(同壮一郎)(同淳一郎)(以上平成二十一年八月満期)

(米澤川)(京都齋藤)(東京佐藤)(米澤山)(東京鈴木)(米澤木)(東京木)(北海道清木)(東京澤木)(東京木)(同羽木)(同陽吉)(同吉田)(同吉仁)(同吉雄)(同吉勇)(同吉宣子)(同吉志一郎)(以上平成二十四年八月満期)



○寄宿舍 興讓館長

○我妻榮記念館  
東京沼川合澤研一  
仙台滝口政雄  
同副館長澤健  
同副館長澤健  
名譽館長我妻  
館長上村勘  
事務局長鈴木幸  
運營委員遠藤  
佐藤英  
高橋部敏  
五十嵐拓  
本安部敏  
多藤英  
橋京子  
小和子  
林彦子  
秀彦  
一彦  
管理人

東京支部役員

副支部長 米野研宗

佐倉紺	川川加伊伊飯鈴沼	事	理
伯田野	井合藤藤藤沼	木澤	
雅和	陽勝國貞秀太郎	喜俊助	信
子子	耕一雄雄治郎	男	之

監

事

瀧赤事 渡米吉宮平平樋羽沼中滝鈴鈴佐  
澤井 邊野澤坂山山口隅澤川澤木木藤  
淳 忠宗雄孝和英正弘研絃昭吉信陞  
新一 義禎一夫博三宏宣一一義助之三

参

相談役

事 石 情 鈴 高 金 小 本  
林 鈴 斎 近 紺 神 大 太 今  
木 藤 藤 野 野 友 田 井  
里 うめ ゆ 和 郁 民 勝 ひろみ 浩之介  
子 よ 博 子 耕 夫 廣 み 一 男 二 龍 雄 三 雄 雄

評議員

本原	林	橋	瀧	平	佐	五	川	小	大	今	伊	安	青	吉村
川田		本澤		藤	寺	雲	越	口	石	井	藤	部	木	田石
照常	享	昭	晋	孝			一	征	道	浩	隆	洋	恵	仁房
裕二	子	子	義	策	夫	卓	郎	四	明	介	明	司	子	志男

---

(以上平成二十五年五月滿期)

山村  
山田  
幸浩  
生和

吉	山	深	桶	鈴	佐	近	金	神	太	遠	安	安	安	山村
田	田	沢	渡	木	藤	藤	藤	野	田	藤	藤	部	部	山田
仁	雅	和	三	うめ	郁	泰	民	ひろみ	弘	忠	壯	一	彥	幸浩
志	宏	子	保	よ	毅	子	伸	夫	隆	彦	彥	一郎	生和	生和

---

理	事	(理)事	支部長	米沢支部役員									
山	佐	小	加	上	小	遠	江	井	多	津	橋	部	三十郎
宮	藤	林	藤	村	野	藤	川	熊	和	幸		三十郎	
光	広	伸	真	勘	庄	善	榮	征	彦	保	勉		
雄	明	一	琴	二	士	之	助	一					

---

監

事	淀舟	中川	山條	泰豐	弘文	吉山	野田	木本	坂	手塚	種昌	高信	高清	鈴木	柴田
						手	手	本	坂	坂	高	丈	丈	柴	柴
						宮	宮	坂	田	田	清	節	幸	幸	正
				美智	一郎	昌	昌	田	村	橋	幸	幸	孝	孝	孝
				子		修	修			橋					

評議員

玉武庄白島佐小下川加加遠大稻石安  
上田司田倉藤林條野藤澤藤山村田部  
利誠芳靜富圭邦裕正善和  
恭郎彦悟夫雄一彦章功人實則裕修弘敏

顧問

野中武高後木遠藤皆松前本福戶中  
村川田橋藤村山川田山間崎條田直  
研幸忠武秀昇健真淳知子  
三勝誠翁源彦修雄二精博

相談役

町高曾鈴島佐小川大遠上上石安  
田橋根木田野閔崎杉大保藤塚部  
富伸徳康清久太郎英季忠行  
保昭良松薰一農豊明之雄夫雄

参考事

(事務局) 鈴宍米宮高伊藤  
(事務局) 宮本間橋秀一  
木戸義浩宣行  
隆浩行

仙台支部役員

理 事  
(事務局) 御  
供政  
敏  
副支部長  
(理事) 甲  
(理事) 乙  
塚安  
原部  
保金  
夫之丞  
國信

# 相談役監

中條	加藤	遠藤	事和	長廣木口	田瀬木多	高橋野良政	鈴木昌助	今祐一	香坂多	龟岡昌	大川祐	加武
			美知子	健健	美知子	健健	晓	政	良政	祐一	昌	清
仁			二郎				一夫	彦宏	平彦	紀一	巖助	夫

京都支部役員	支部長	副支部長	理顧	庶務幹事	問	事	新	保	岩	齊	高	谷
高橋	岩崎	新野	事	保	岩	問	高	谷	普	谷	野	三
藤野	昭榮	昌喜	事	科	崎	問	藤	橋	野	野	榮	三
雅雄	一淳	生重淳	事	喜		問	昭	雅	榮	榮	榮	

北海道支部役員	支部長	評議員	理顧	副支部長	保谷
佐藤	北郷	水星	高遠	後藤	壳
藤恒	郷利	高橋	木橋	間	谷
邦	宗勝	藤健	木健	正助	科
夫	興勝	利雄	正雄	章次	喜

相談役	理顧	副支部長
佐藤	丹鈴	佐上
安部	須芳	藤野
大峠	藤野	野賀
英康	吉秀	秀樹
治豊	行久	久子

興讓館寄宿舎OB会

名譽会長

会長 下條泰生

副会長 羽隅弘宣

安部英夫  
(東京OB)

芳賀秀樹  
(仙台OB)

佐藤穀

幹事長  
(札幌OB)

副幹事長

川大合滝勝則雄忠

監

会計幹事

幹

事

石飯	川貝	伊上齊宮菅本高加樋甲沼
原沼	井沼	藤野坂野多山藤口澤
俊俊	陽孝	和和孝憲和征國正國研
一男	一二	夫子彰夫幸彦一雄宏信一

顧

問

幹事長	幹事長	副支部長	東京支部長	
飯宮	貝菅	加中今板安小高金小		
沼坂	沼野	藤條井垣部閔橋子森		
俊孝	孝憲	国和義三十俊芳力		
男夫	二幸	仁夫次郎薰龍雄		

顧

副支部長	米沢支部長	監事	会計幹事	
小高林橋伸丈一夫	本多和彦	高瀬淳勝	赤井一	島佐貫正憲夫
				千喜良誠
				鈴木一
				川合正勝
				佐藤和明
				舟山陞雄
				安藤國博
				平山洋三
				佐藤司夫

事務局	顧問	監事	理事	副支部長	仙台支部長
落長	中間	船事	今香滝	塚甲	
合澤	條	山野	坂口	原	
裕健		完多	昌政	保	國
也一	仁	一助	紀彦	夫	信
幹	副幹事長	幹事	小村齊	副会長	獎學生OB・OG会
渡遠	水仁	貝	加		(平成21年2月28日発足)
部藤	事見科	沼長	野山藤	納長	かつこ内数字は 奨学生貸与開始年度
順一	義	孝庄	浩	和	
一榮	洋英	二士	和彰	子	
(H 11 S 46)	(S 52 47)	(S 47)	(S 48 46 37)	(S 30)	

顧監  
 高鈴安大酒金小佐  
 橋木部関井子森問藤事  
 倭三修芳力憲  
 勉二郎敬旭雄夫一  
 (S  
48  
31  
28)  
 (S  
44)

# 賛助会員名簿

社団法人米沢有為会の主旨に賛同いただき賛助会員としてご支援ご協力をいただいている方々です。

## 東京支部

### 法人名

日綜産業(株)  
大木リフォーム(株)  
(株)向洋アドシステム  
マコート技研(株)  
舟寿整形外科(株)

### 代表者

小野辰雄  
設楽保雄  
金子晃司  
深澤達夫  
新野正憲

(敬称略)

(平成二十四年度)

米沢支部  
法人名  
(株)遠藤相田建設  
(株)置賜建設  
(株)大嶋建設  
(株)小嶋總本店  
(株)中嶋清設

代表者  
相田廣  
相田建  
相田賜  
相田建  
相田清

(敬称略)

川野恵一  
中村典  
小嶋彌左衛門

代表者  
栗加藤啓二  
林崎一巳  
崎まつ子  
(平成二十四年度)

## 仙台支部

### 法人名

仙台環境科学(株)  
日本不動産(株)  
(株)東北オフィスマシン

(敬称略)

さの医院  
鐵砲屋町町内会  
中條医院  
浜田(株)  
舟山(株)  
財宮坂考古館  
丸定  
若松工業(株)  
精英堂印刷(株)  
(株)タカハタ電子  
(株)羽陽印刷  
(株)山形新聞社置賜総支社  
米沢中央高等学校同窓会椎の実会  
片倉佐藤良喜  
井上吉尚  
安房昭一郎  
大石毅  
田中祐一  
演田明純  
磯野清一  
佐野隆一  
中條明夫  
濱田清一  
佐藤直樹  
宮坂良喜  
片倉吉尚  
佐藤昭一  
大井祐一  
演田明純  
磯野清一  
佐野隆一  
中條明夫  
濱田清一

(平成二十四年九月現在)

## 後記

▲今年の冬は大雪で、雪解けが遅く作付が心配されましたが、春は毎年同じに巡ってきました。大雪の影響は雪隠いの細木が結構折れたことです。春の上杉まつりなども久しぶりの雨で行列参加の皆さんもビニール雨具で行進しました。夏は猛暑続きで、九月に入つても残暑が厳しい。暑さ寒さも彼岸までと言われるとおりでした。地球全体の気候が少しずれてきたのかと思いました。

▲三月の寄宿舎生や奨学生の募集選考に際し、特に舍生の応募が少なく、寄宿舎運営の危機が訴えられました。仙台寮は激減で入寮生が半数ほどとなり、寮を運営できないほどの危機を迎えるました。急速募集プロジェクトを立ち上げ対策を検討しました。地元進学校を対象とした聞き取り調査から、保護者説明会でのPRや号外の発行による寄宿舎の周知などに取り組みました。手ごたえは感じておりますが、実際入寮していただけるかはこれからです。会員の皆さんにも子弟などの入寮勧誘のご協力をいただきたいと思います。

▲就職で企業の採用担当者の話が伝わっています。大学生活では、寮生活か、アパート生活か、親元からかなどの質問があり、寮生活者を先に採用する割合が多いといいます。それは協調性が身についていたり、コミュニケーション能力が優れていたりするからだといいます。四年間同じ釜の飯を食っていたことで自然と身に着くものでしょう。寮生活の良いところを売りにしていきたいものです。せっかく良い企業に就職しても、人間関係の不和で、一、二ヶ月して退社に追い込まれるのは避けたいものです。

▲編集会議で新しい提案もあり、取り入れました。郷土の歴史短信です。また有為会の目的である人材育成に関わって郷土の先人を掘り起こすこととしました。(トピックス)  
▲明治二十二(一八八九)年に発足した米沢有為会が新たな公益法人となるべく申請します。今後とも青少年の育英事業を柱とした活動にご協力賜りますようお願いいたします。

(文化広報部長 梅津幸保)

**本部・各支部事務所等所在地**

本 部	182-0004 東京都調布市入間町一丁目三六番地 電・FAX (03) 330-9330
東京支部	182-0004 東京都調布市入間町一丁目三六番地 電・FAX (03) 330-9330
米沢支部	992-0045 山形県米沢市金池五丁目二ノ二五 電・FAX (03) 330-9330
仙台支部	980-0874 宮城県仙台市青葉区二日町六一三一四〇一 電 (03) 225-02336 FAX (03) 225-02336
京都支部	62-1801 京都府京都市伏見区桃山町伊庭二一十九 電 (075) 660-5465
北海道支部	06-1006 北海道札幌市中央区南一条西八丁目 株 日建社内 田村邦夫 T G 札幌ビル 7F 電 (011) 271-2585

**米沢有為会設置施設**

- 東京興譲館** 182-0004 東京都調布市入間町1-36  
電・FAX (03) (3309) 3302
- 仙台興譲館** 980-0874 宮城県仙台市青葉区角五郎2-6-21  
電 (022) (222) 4790
- 我妻榮記念館** 992-0045 山形県米沢市中央3-4-38  
電・FAX (0238) (24) 2211

発行 社團法人 米沢有為会

会長 須貝 英雄

編集担当

文化広報部

部長 梅津 幸保

発行日 平成二十四年九月二十九日

子育て世代応援コミコミ住宅

# ペルーミント

『安くていい家』で大好評の「ペルーミント」です  
自由設計ですので2世帯住宅にも対応しています  
ぜひご相談ください



株式会社 **本多建設**

〒992-0047 山形県米沢市徳町7-52

お問い合わせは今すぐ！ TEL 0238-21-5100  
FAX 0238-21-4458 E-mail info@hondahomes.com

WEBで検索！ [ホンダホームズ](#)

本多建設ホームページアドレス  
[hondahomes.com](#)

世界に  
たったひとヶ家  
我が家

割烹

きん柳

個室 5名様から100名様まで

〒992-0045 米沢市中央一丁目14-4

電話 0238-21-1234



上杉城史苑すぐ隣り！

# べに花庵

米沢牛串焼き

玉こんにゃく

米沢ラーメン

全国唯一!!

うこきソフト

その他いろいろ

住所 / 〒992-0052 米沢市丸の内1-1-22

電話番号 / 0238-23-6310

営業時間 / 9:00から17:00まで 定休日 / なし

漬物はやっぱり  
雪国の米沢のが一番

一度あがってみてください!!

創業50年の専門店 窪田の後藤商店

お申し込みは最寄りの取り扱い店または当店まで  
自然の味をそのまま手づくり

有限  
会社 **後藤商店**

〒992-0003 山形県米沢市窪田町窪田413-3

☎ 0238-37-5378(代)

FAX 0238-37-6345

<http://www.marsho.jp>

E-mail: [info@marsho.jp](mailto:info@marsho.jp)

後藤喜彦 東京興譲館寮 平成12年卒



◎宅配便でお届けします。(関東方面630円)

(送料は別途申し受けます)

お支払いは代金引替、郵便振替等で

No.	規 格	価 格
A	おみ漬(8袋)	3,150円
B	青菜漬(8袋)	3,150円
C	おみ漬・青菜漬詰合(8袋)	3,150円
D	赤かぶ甘酢漬(8袋)	3,570円
E	おみ漬(3袋)青菜漬(3袋)赤かぶ(2袋)	3,255円

他にミックスにも応じます。

米沢では米沢駅 2 F アスクでも販売しています。



グルメからお土産まですべて揃う  
米沢観光のキーステーション



## 食彩俱楽部

ごきげん  
米沢牛をはじめ、  
物産品が満載!!

●ご希望の方に上杉城史苑商品  
カタログをお送りいたします。

<http://uesugijoshien.jp>



## 上杉城史苑

代表取締役会長 内藤文徳理

代表取締役社長 松田

(株)上杉コーポレーション

〒992-0052 米沢市丸の内一丁目1-22

TEL.0238-23-0700 FAX.0238-21-8252



鯉料理&  
スローフーズ

## 鯉の宮坂

米沢牛惣菜  
地産創食

## 宮香本舗

みやこう  
ほんぽ

株式会社 タスクフーズ  
山形県米沢市相生町7-130

0120-25-7188

URL <http://www.koi-miyasaka.com>

地元に愛されて30年。  
皆様の「大切」を私たちの「大切」に。



### 東北警備保障株式会社

山形県公安委員会認定第6号  
山形県米沢市アルカディア1丁目808-17  
電話 0238-29-0005  
FAX 0238-29-0015  
URL <http://www.next-alert.co.jp>

#### 営業品目

- ・機械警備
- ・常駐警備
- ・交通誘導業務
- ・イベント警備（上杉まつり・花火大会など）
- ・施設管理（米沢市総合公園 指定管理者など）
- ・清掃業務（法人契約）

IPを使ったホームセキュリティシステム(最新式)導入!  
体験キャンペーン実施中!!

水質・土壤・大気分析、作業環境測定、排水設備工事等



### NEXT 環境コンサルタント

米沢市アルカディア1丁目808-17  
電話 0238-29-0025 FAX 0238-29-0015

環境測定分析をとおして、  
美しく豊かな自然の保護に力を尽くしています



計量証明事業登録

宮城県知事 第H7-001号(濃度)

## 仙台環境科学株式会社

代表取締役 加藤 啓二

〒980-0011

宮城県仙台市青葉区上杉三丁目3番17号

TEL (022) 263-1361

FAX (022) 263-1362

「大地震の発生直後から、日本中はもとより、世界中の人々や団体、企業  
から多くの物資や義援金とともに、さまざまな励ましのメッセージをいた  
だきました。ふるさと宮城は少しずつ復興へと歩み始めています。」

『ご支援ほんとうにありがとうございます』

株式会社  
**羽陽印刷**

米沢市中央3丁目9-22

TEL (0238)23-0467代

FAX (0238)23-0480



全国新酒鑑評会

四年連続金賞受賞

# 東光



清酒



上品な吟醸香、溢れる旨み、  
心地良い余韻：  
技術の粹を結集して醸した  
極上の美酒

創業四百余年  
株式会社 小嶋総本店

ご宴会、ご会合は  
サンルートにおまかせ下さい



ご予約  
お問合せは



ホテルサンルート米沢

〒992-0039 山形県米沢市門東町3-3-1 共立ビル TEL 0238-22-6655(代)

自然と感性が交わる、創造の小さき庭。  
アート・ビオトープ那須



レジデンス 陶芸・ガラススタジオ ワークショップ

[www.artbiotop.jp](http://www.artbiotop.jp)

〒325-0303  
栃木県那須郡那須町高久乙道上 2294-3  
TEL : 0287-78-7833 FAX : 0287-78-6627



サマー・オープン・カレッジ——いま、ここで考えたいことをあつめた夏の5日間

Schule im Berg 山のシユーレ

「山のシユーレ」は、那須高原山麓・横沢地区にあるアート・ビオトープ那須で開催されるテンポラリーな学校です。

[www.schuleimberg.com](http://www.schuleimberg.com)

主催——特定非営利活動法人アート・ビオトープ

# Party Space



米沢の中心にあり、郷土感あふれる土地にたたずむ  
「グランドホクヨウ」

英国式の厳かな独立型チャペルや、多種多様なパーティー会場があります。  
ステンドグラスが特徴的なチャペル、県内でも大変珍しい和テイストの紗紅蘭。  
レンガ造りで、大きな暖炉が特徴的な邸宅のハウスウェディング風のプロヴァンス。  
豪華なシャンデリアが特徴的なブライトイイン。  
一步足をふみ入れれば正面に赤い階段がひろがり、様々なテーマ性のある個性的な会場で、  
最幸の一日をとびきりロマンティックにお過ごしください。

お問い合わせは 0238-22-1238

[www.grand-hokuyo.com](http://www.grand-hokuyo.com)

## グランドホクヨウ

山形県米沢市金池2丁目3-7 / TEL:(0238)22-1238/FAX:(0238)21-1067

# 日本全国、ホルムアルデヒド退治の虎の巻。

タイガーハイクリンボードは  
シックハウス症候群の主な原因物質の  
ホルムアルデヒドを吸収・分解するので  
日本全国、安心家族の「虎の巻」です。



- 新築・リフォーム直後や新しい家具などから発生するホルムアルデヒドを短時間で吸収・分解します。
- 一定の条件下で厚生労働省指針値のホルムアルデヒド濃度0.08ppmを下回る0.05ppmの数値を実現しました。
- ハイクリンボードの「壁材」「天井材」は物理的な吸収と異なり、ホルムアルデヒドを化学的に吸収・分解するため再放出されません。
- タバコの煙に含まれているアセトアルデヒドの低減効果も併せ持っています。
- 不燃性、施工の容易性など、せっこうボードの数々の優れた性能をそのまま保持しています。

**タイガーハイクリンボード**

High-Clean Board

ホルムアルデヒド吸収・分解せっこうボード

(財)日本建築センターから「室内空気中の揮発性有機化合物の低減対策」として認定されました。(認定番号: BCU-A017)

吸収  
(ホルムアルデヒド吸収・分解イメージ)



**YOSHINO**

安全で快適な住空間を創る吉野石膏

[本社] 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル TEL 000-0005

<http://www.yoshino-gypsum.com/>

取締役社長 須藤 永一郎

明治二十二年十二月十四日創刊  
昭和二十七年八月二日復刊  
平成二十四年九月二十九日発行

発行 社団法人  
編集 文化会長 米須沢  
文化広報部長 梅津貝有  
電話・FAX ○三三三〇九一三三〇二  
東京都調布市入間町一丁目三十六番地保雄会  
幸英為  
印

電山刷形  
話米羽陽印  
○三三八一三三〇四六七